

都市計画道路木太鬼無線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第5冊

木太小原遺跡

2022年3月

高松市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、都市計画道路木太鬼無線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書であり、木太小原遺跡を収録した。
- 2 調査地、期間及び面積は、次のとおりである。
調査地　　高松市木太町小原 741 番地外
調査期間　令和 2 年 9 月 1 日～10 月 26 日
調査面積　800 m²
- 3 発掘調査及び整理作業は、高松市教育委員会の権限に属する事務の補助執行として、高松市創造都市推進局文化財課が実施した。
- 4 現地調査は、高松市創造都市推進局文化財課文化財専門員梶原慎司、品川愛、会計年度任用職員鵜川京香が担当し、整理作業は品川が担当した。
- 5 本書の執筆、編集は品川が行った。
- 6 本調査に関連して以下の分析業務を依頼した。
土器付着物の分析　吉田生物株式会社
遺物の写真撮影　　西大寺フォト
- 7 標高は東京湾平均海面高度を基準とし、図中方位は座標北を指す。なお、これらの数値は世界測地系第IV系にしたがった。
- 8 遺構・遺物の縮尺については図面ごとに示している。
- 9 発掘調査で得られた全ての資料は、本書刊行後に全て高松市教育委員会で保管している。

目 次

第Ⅰ章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯	1
第2節 試掘調査の成果	1
第3節 発掘調査の経過	2
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3

図 表 目 次

図1 試掘調査の範囲	1
図2 調査区割	2
図3 高松市の地形と調査地	3
図4 周辺遺跡分布図	4
図5 遺構配置図	7
図6 南壁断面図	8
図7 SD01・SD02 平断面図	9
図8 SD01 出土土器1	10
図9 SD01 出土土器2	11
図10 SD01 出土土器3	12
図11 SD01 出土土器4	13
図12 SD01 出土石器	14
図13 SR01 平断面図	16
図14 SR01 出土土器1	17
図15 SR01 出土土器2	18
図16 SR01 出土木器・石器	19
図17 SK01 平断面図	20

写 真 目 次

写真1 №1 内面	21
写真2 №1 内面の断面	22

図 版 目 次

図版1 1 SD01北半	
2 SD02南半	
図版2 3 SD01北壁断面	
4 SD01南壁断面	
5 SD02北壁断面	
6 SK01半裁状況	
図版3 7 SR01南壁断面	
8 SE01検出状況	

第Ⅲ章 調査成果

第1節 発掘調査の方法	6
第2節 基本層序	6
第3節 遺構・遺物	6
第Ⅳ章 自然科学分析の成果	21
第Ⅴ章 総括	25

図18 SE01平面図	20
図19 資料のスペクトル	22
図20 現生漆のスペクトル	23
図21 現生柿渋のスペクトル	23
図22 土器の付着物	24
図23 木太小原遺跡周辺の旧地形	25
図24 香東川下流域産土器の出土頻度	25
表1 調査資料	21
表2 結果表	24
表3 遺物観察表1	27
表4 遺物観察表2	28
表5 遺物観察表3	29
表6 遺物観察表4	30
表7 遺物観察表5	31
表8 遺物観察表6	32
表9 遺物観察表7	33
表10 遺物観察表8	34

写真3 №1内面の断面 写真2の拡大	22
--------------------	----

図版4 9 弥生土器(甕)	
10 弥生土器(壺)	
図版5 11 弥生土器(高杯)	
12 弥生土器(鉢)	
13 弥生土器(その他の器種)	
14 SR01出土木器・種子	
15 石器・石核	
図版6 16 SR01出土土器	

第Ⅰ章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

当該地は高松市道路整備課（以下、事業課）が計画する都市計画道路木太鬼無線街路事業の事業地である。事業課より依頼を受け、高松市文化財課（以下、文化財課）は令和2年5月8日～5月13日に試掘調査を実施した（図1の1～16トレント部分）。その結果、試掘調査地の東側の一画（図1網掛け部分）で中世以前の遺構・遺物が検出されたため、この範囲を新たに埋蔵文化財包蔵地「木太小原遺跡」として遺跡台帳に登録した。その後、事業課より令和2年8月18日付けで埋蔵文化財保護法第94条第1項に基づく発掘通知が提出され、香川県教育委員会へ進呈したところ、同日付けで「発掘調査」の行政指導があつた。これを受け、文化財課は事業課と協議し、発掘調査を実施することで合意したため、令和2年9月1日～10月26日にかけて発掘調査を実施した。また、発掘調査の後、令和2年12月9日に17、18トレント付近で追加の試掘調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかつた。

第2節 試掘調査の成果

2回にわたる試掘調査で合計18本のトレントを設定した。その結果、7トレント以西では、家屋等の建物が立っていた範囲を除き、現地表面から約15～30cmの深さで地山である褐色シルト層が検出された。地山上面では、4、5トレントで溝、7トレントで不整形遺構が検出されたが、3トレント以西では遺構・遺物は検出されなかつた。一方、8～10トレントでは、褐色シルト層の地山は検出されず、現地表面から約25～40cmの地点で灰色～灰褐色の疊まじりシルト層が検出された。8トレントでは幅7m程度の自然流路を検出し、埋土から弥生土器片がわずかに出土した。8～10トレント付近は、図1の網掛け部分より約50～60cm低く、地割も乱れているため、谷部または自然流路であった可能性がある。

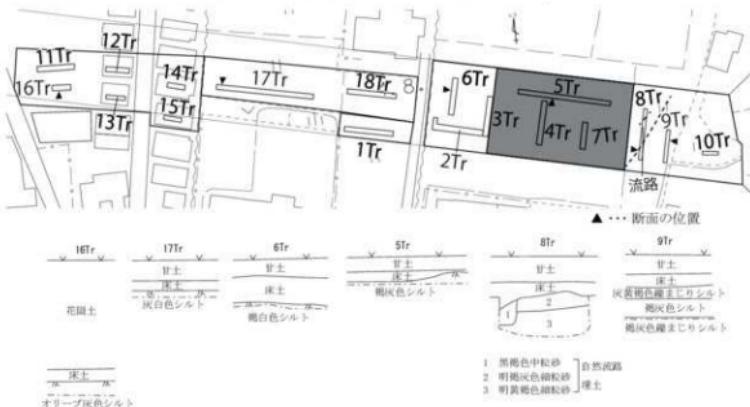


図1 試掘調査の範囲（平面 S=1/1200 断面 S=1/40）

第3節 発掘調査の経過

発掘調査は令和2年9月1日から同年10月26日に終了した。発掘調査では、土置き場を確保するため、調査区西側から南側のL字状の範囲を先に調査し、次に残りの範囲を調査した(図2)。調査中は、L字状の範囲をI区、長方形の範囲をII区と呼称した。

発掘調査の主な工程は以下のとおりである。

9月1日	I区の重機掘削
9月2日	遺構検出 SD01、SR01、SK01 検出
9月8日～28日	SD01、SR01、SK01 掘削
9月29日	I区完掘 写真撮影 平断面図作成
10月5日～6日	II区の重機掘削
10月7日	II区の遺構検出 SD01、SD02、SE01 検出
10月8日～14日	SD01、SD02、SE01 掘削
10月15日	SD01、SD02 完掘 SD01、SD02 断面図、SE01 平面図作成
10月19日	SR01 掘削 SR01 断面図作成
10月21日	II区完掘 写真撮影
10月26日	II区の平面図作成

整理作業は令和3年度に実施した。

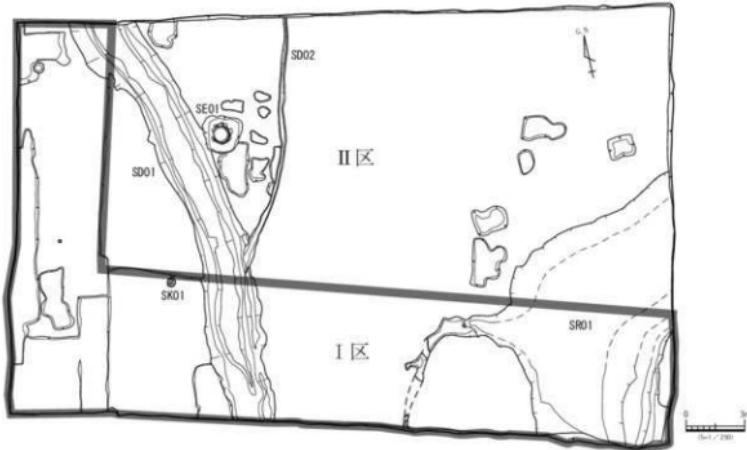


図2 調査区割

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

高松市は香川県の中央東よりに位置し、市域の大部分には高松平野が広がる。高松平野は香東川、本津川、春日川、新川によって運搬された堆積物によって形成された平野である。なかでも香東川の堆積作用が最も強く、春日川の西側付近まで香東川の堆積作用が及ぶ。現在石清尾山山塊の西側を流れる香東川は17世紀の河川改修によって人工的に開削されたもので、それ以前には現在の香川町大野付近から東へ分岐した後、石清山の南側を回り込んで平野中央部を流れるもう一本の主流路が存在した。この旧流路は現在は埋没しているが、空中写真等から林町から木太町へかけての分ヶ池、下池、長池、大池、ガラ池を結ぶ流路跡が數本確認されており、発掘調査によってもその痕跡が確認されている。



図3 高松市の地形と調査地

第2節 歴史的環境

【縄文～弥生時代】高松平野中央部で最古の遺跡は大池遺跡(17)であり、縄文時代草創期の有尖頭器2点が表採されている。

縄文時代晚期～弥生時代前期には、高松平野において稲作が開始されたことを示す遺構・遺物が確認されるようになる。縄文時代晚期の居石遺跡(25)では流路の埋土からイネのプラントオバールが確認されており、林・坊城遺跡(31)やさこ・長池遺跡(29)の流路では縄文時代晚期～弥生時代前期の土器とともに木製農耕具が出土した。弥生時代前期にはさこ・長池II遺跡(28)や上西原遺跡(16)で小区画水田が確認されている。

弥生時代中期にはさこ・長池遺跡(29)、さこ・長池II遺跡(28)で堅穴建物跡、周溝墓を伴う集落の一部が確認されている。いずれの遺跡でも堅穴建物の数は4～5棟程度であり、遺構の規模や密度は総じて希薄である。

弥生時代後期になると遺跡数が大幅に増加する。境目・下西原遺跡(2)、井出東I遺跡(27)、さこ・松ノ木遺跡(30)、林・坊城遺跡(31)、蛙股遺跡(24)、木太本村遺跡(11)、木太中村遺跡(9)、天満・宮西遺跡(4)、キモンドー遺跡(8)等で当該期の遺構・遺物が検出されている。なかでも天満・宮西遺跡(4)では数十基の堅穴建物が密集して検出された他、銅鏡片や多くの外来系土器が出土しており、高松平野の中でも拠点的な役割をもった集落と考えられる。

【古墳時代】弥生時代後期に出現した遺跡のほとんどは古墳時代前期には後続しない。天満・宮西遺跡(4)で堅穴建物が数棟みられる程度となる。古墳時代前期の遺跡としては、居石遺跡(25)が知られる。居石遺跡(25)では自然流路から分岐する取水口で小型仿製鏡3面が出土し、出土状況から水の安定供給を願う祭祀が行われたものとみられる。また、古墳時代前中期～中期の白山神社古墳(13)では、内部に朱が塗布された堅穴式石室が確認された。現在では



図4 周辺遺跡分布図

消滅しているが、白山神社古墳（13）周辺には10数基の塚が存在したようである。

【古代】 古代以降になると、さこ・長池遺跡（29）、さこ・松ノ木遺跡（30）、さこ・長池Ⅱ遺跡（28）、井手東I遺跡（27）、松縄下所遺跡（3）で条里型地割に沿った溝が検出されている。松縄下所遺跡（3）では、道路状構造と考えられる2本の直線溝が検出され、その時期が7世紀代までさかのぼりえることから、高松平野の条里施工の端緒に関わる遺跡として評価されている。また、日本最古の荘園田図である「弘福寺領讃岐国山田郡田図」の北区比定地が大池周辺に存在する。この田図と同時期の遺構が発見された遺跡として本太本村II遺跡（12）が挙げられる。

【中世】 中世の遺跡としては、さこ・長池遺跡（29）、さこ・松ノ木遺跡（30）が知られ、両遺跡では旧河道が埋没していく過程のくぼ地に小規模区画の水田面が検出されている。さこ・

松ノ木遺跡（30）では中世以降も連續して水田層の堆積がみられることから、当該期には現在の地形環境がほぼ形成されていたと推測される。また、当該期には、城館跡が多数みられるようになる。まず、詰田川の西側には神内氏の神内城跡（10）が存在する。神内城跡（10）では発掘調査によって15～16世紀の遺物を含む溝が確認され、城の北限が明らかにされている。詰田川の東側には土壘状の造構が残る真鍋氏の向城跡（14）があり、神内城跡（10）から西に約1kmの地点には宮脇氏の松縄城跡（5）が存在する。南に目を転じると佐藤氏の佐藤城跡（7）があり、佐藤城跡の東限に位置するキモンドー遺跡（8）では近世に埋没した堀跡が確認されている。

【参考文献】

- 香川県教育委員会 1993『林・坊城遺跡』
香川県教育委員会 1995『埋蔵文化財試掘調査報告Ⅷ』
香川県教育委員会 1998『木太本村II遺跡』
香川県教育委員会 2009『木太中村遺跡 文京町二丁目西遺跡』
高松市教育委員会 1992『讃岐国弘福寺領の調査』高松文化財調査報告第19集
高松市教育委員会 1993『さこ・長池遺跡』高松文化財調査報告第21集
高松市教育委員会 1994『さこ・松ノ木遺跡』高松文化財調査報告第23集
高松市教育委員会 1994『さこ・長池遺跡II』高松文化財調査報告第24集
高松市教育委員会 1995『井手東I遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第26集
高松市教育委員会 1995『井手東II遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第27集
高松市教育委員会 1995『蛙又遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第29集
高松市教育委員会 1995『居石遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第30集
高松市教育委員会 1998『境目・下西原遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第36集
高松市教育委員会 1999『キモンドー遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第39集
高松市教育委員会 2000『上西原遺跡 附汲仏遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第47集
高松市教育委員会 2001『松縄下所遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第52集
高松市教育委員会 2001『木太本村遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第53集
高松市教育委員会 2002『天満・宮西遺跡～集落・水田編～』高松市埋蔵文化財調査報告第60集
高松市教育委員会 2004『天満・宮西遺跡～旧河道編～』高松市埋蔵文化財調査報告第69集
高松市教育委員会 2007『白山神社古墳』高松市埋蔵文化財調査報告第103集
高松市教育委員会 2017『高松市内遺跡発掘調査概報－平成28年度国庫補助事業』高松市埋蔵文化財調査報告

第III章 調査成果

第1節 発掘調査の方法

発掘調査では、表土から遺構面までを重機により掘削し、その後人力で遺構検出、遺構掘削を行った。記録にあたっては、基準点を基に1/20縮尺で平面図及び断面図を作成した。写真撮影にはデジタル一眼レフカメラを用いた他、補助的にコンパクトデジタルカメラを用いて撮影した。

第2節 基本層序

木太小原遺跡の基本層序は4層にまとめられる（図6）。I層は現代の甘土（層厚約15cm）、II層は近世～近代の造成土（層厚約5～15cm）、III層は黄褐色土ブロックを含む褐灰色シルト層（層厚約10cm）、IV層は灰白色シルト層の地山であり、IV層上面で弥生時代後期の溝（SD01、02）、弥生時代～古代の自然流路（SR01）、近世末～近代の井戸（SE01）等が検出された。

第3節 遺構・遺物

SD01 調査区西半で検出された幅約2.5m、深さ約10～50cmの溝であり、SE01に切られる。溝底面の標高は南側が約4.00m、北側が約3.80mであり、南から北に傾斜する。溝の埋土は2層あり、溝の底部に疊まじり黒褐色細粒砂～中粒砂層（図7の2層）が10～20cm程度堆積し、その上層に細粒砂まじり黒褐色シルト層（図7の1層）が厚く堆積する。各層からは弥生土器が多く出土した。上層と下層で遺物の時期や構成等に違いはみられなかったことから、短期間のうちに埋没したと考えられる。

SD02 調査区中央で検出された幅約20cm、深さ約5～20cmの小規模な溝であり、SD01に接続する。溝底面のレベルは、北半で平均4.03m、南半で平均4.02mである。遺構の埋土は細粒砂まじり黒褐色シルト層であり、遺物は出土していない。

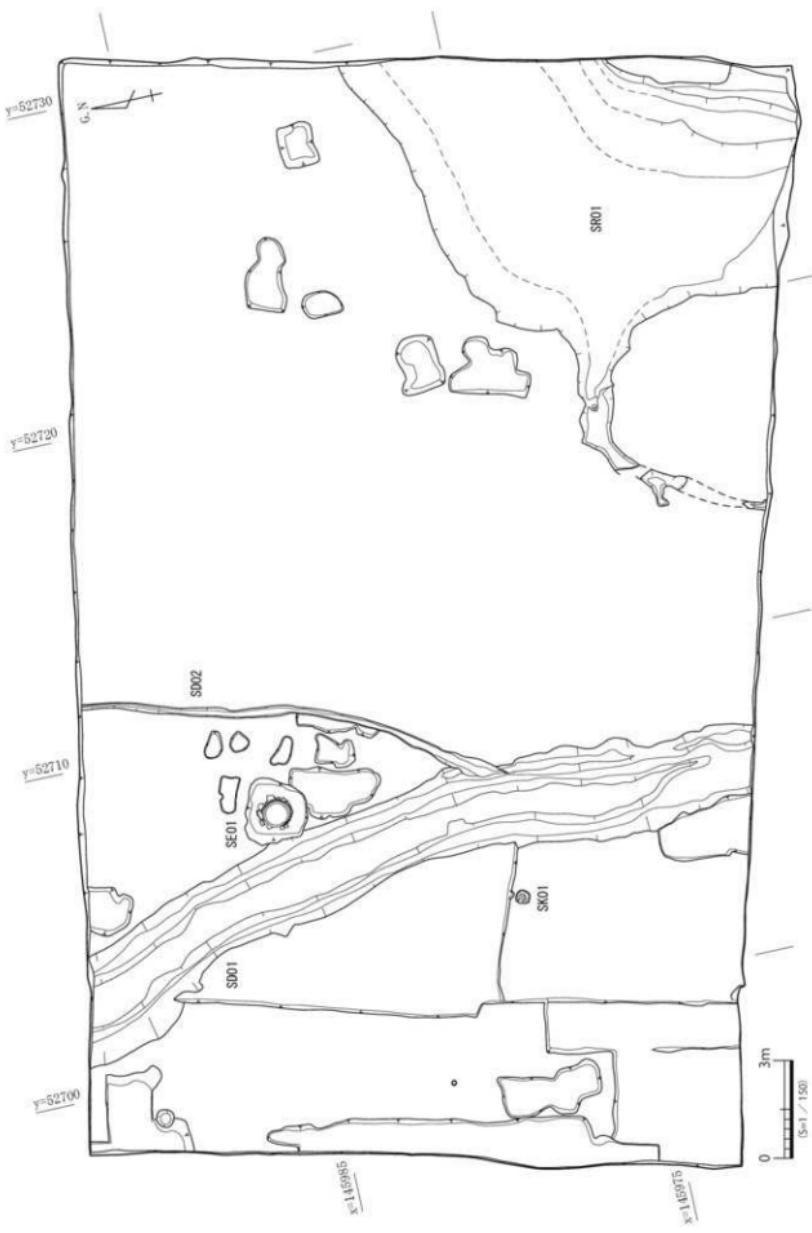
SD01出土遺物

土器 1～46は甕である。1はく字形口縁をもち、外面に横方向の櫛描文が施される。2～4は逆L字状口縁をもつ甕である。2は外面に刻目が残る。

5～31はいわゆる香東川下流域產土器である。5～25は口縁部であり、端部が肥厚するもの（5～13）、端部がコ字状を呈するもの（14～25）の2形態が確認される。外面上部に刷毛目、外面下部にミガキを施し、内面上部に指オサエ、内面下部に削りを施したものが多く確認される。26～29は甕の底部であり、平底で裾部が外に張り出す。30、31は甕または壺の底部であり、裾部が丸みを帯びる。32～44はく字形口縁甕であり、4形態が確認される。32～34は頸部の屈曲が緩く、肩部はなで肩状を呈する。35～39は頸部が明瞭に屈曲し、肩部はなで肩状を呈する。40～44は頸部の屈曲が明瞭であり、頸部がすぼまり肩が張る。45、46は他と比較して短い口縁をもつ。頸部の屈曲は明瞭で肩部が張る。

47～61は壺である。47～51は長頸壺である。47は頸部の付根に突帶をもち、外面には波

图 5 遗構配置图



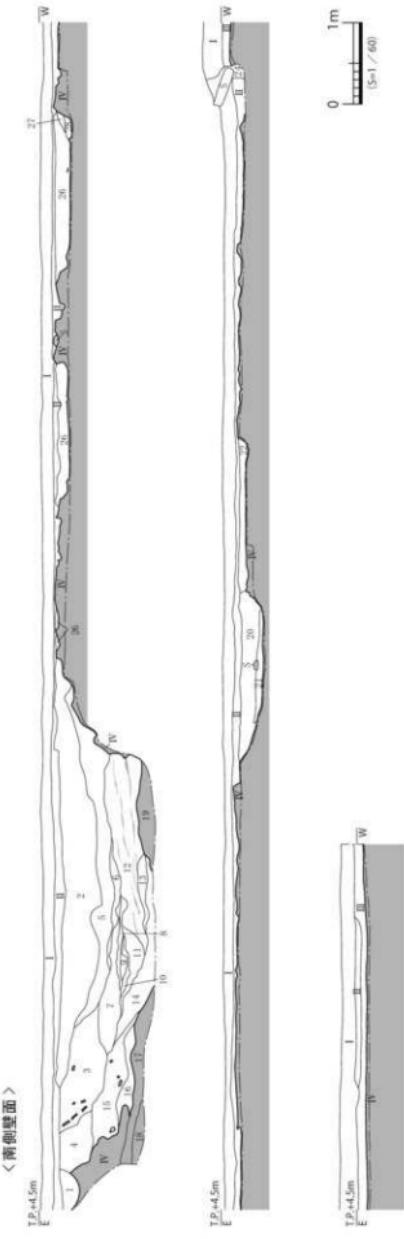


图 6-9 阿里斯顿

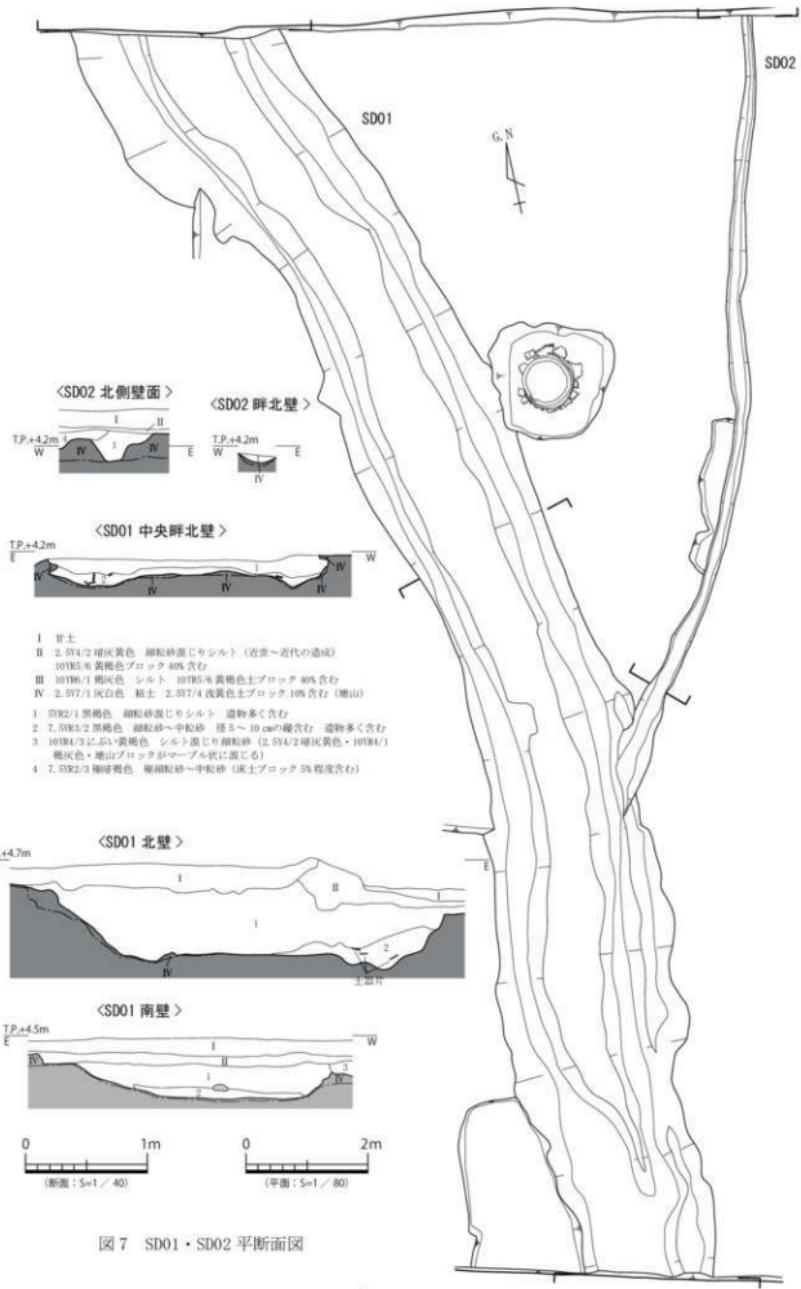


図 7 SD01・SD02 平断面図

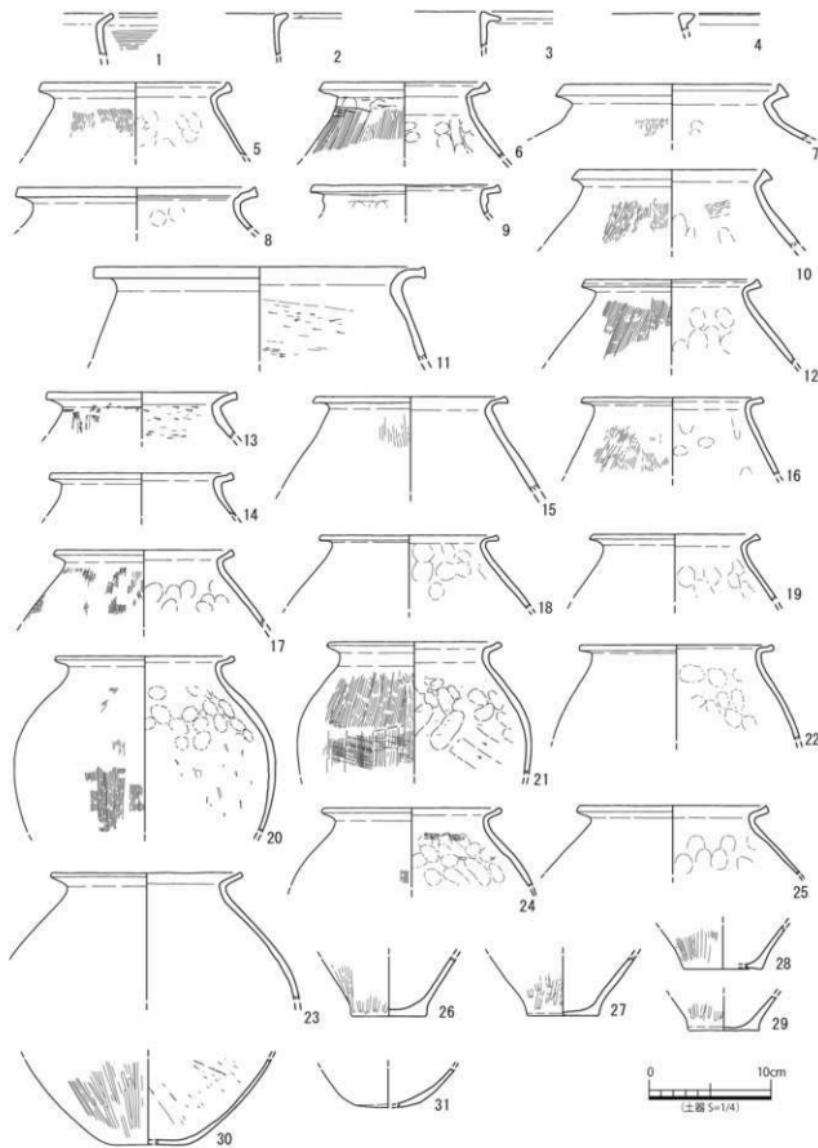


图 8 SD01 出土土器 1

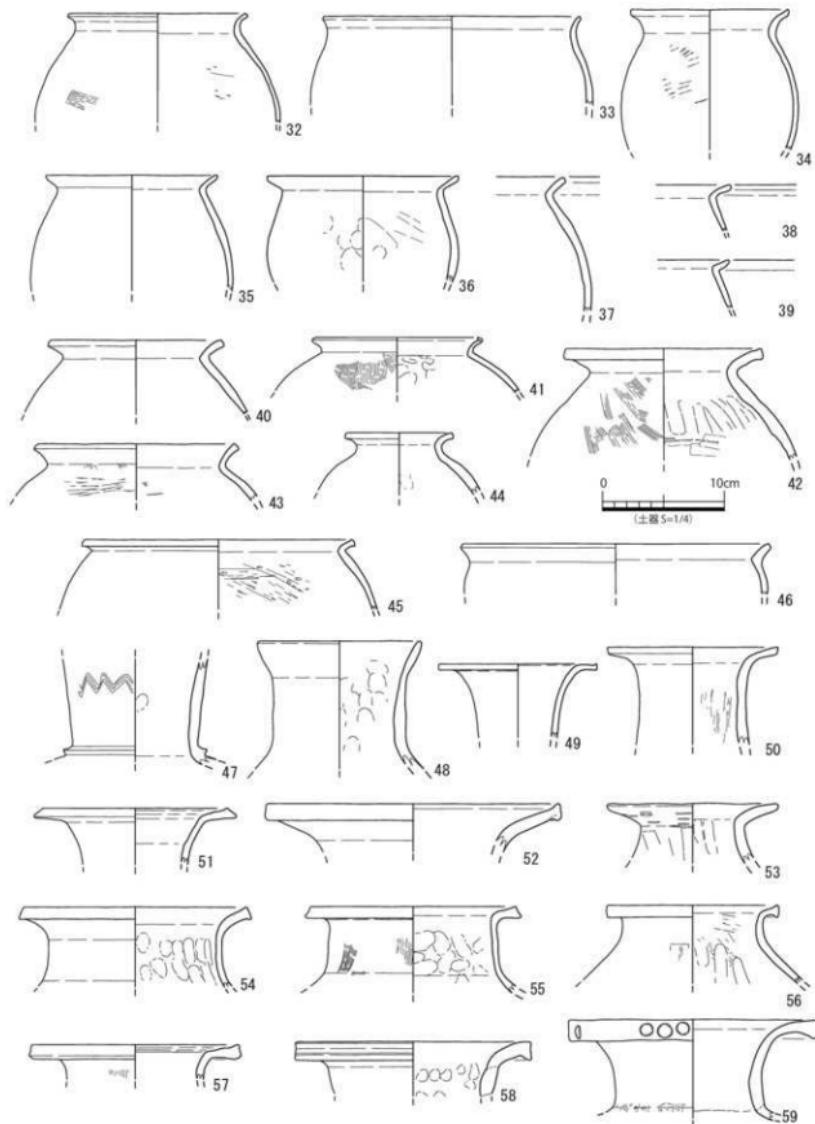


図9 SD01 出土土器 2

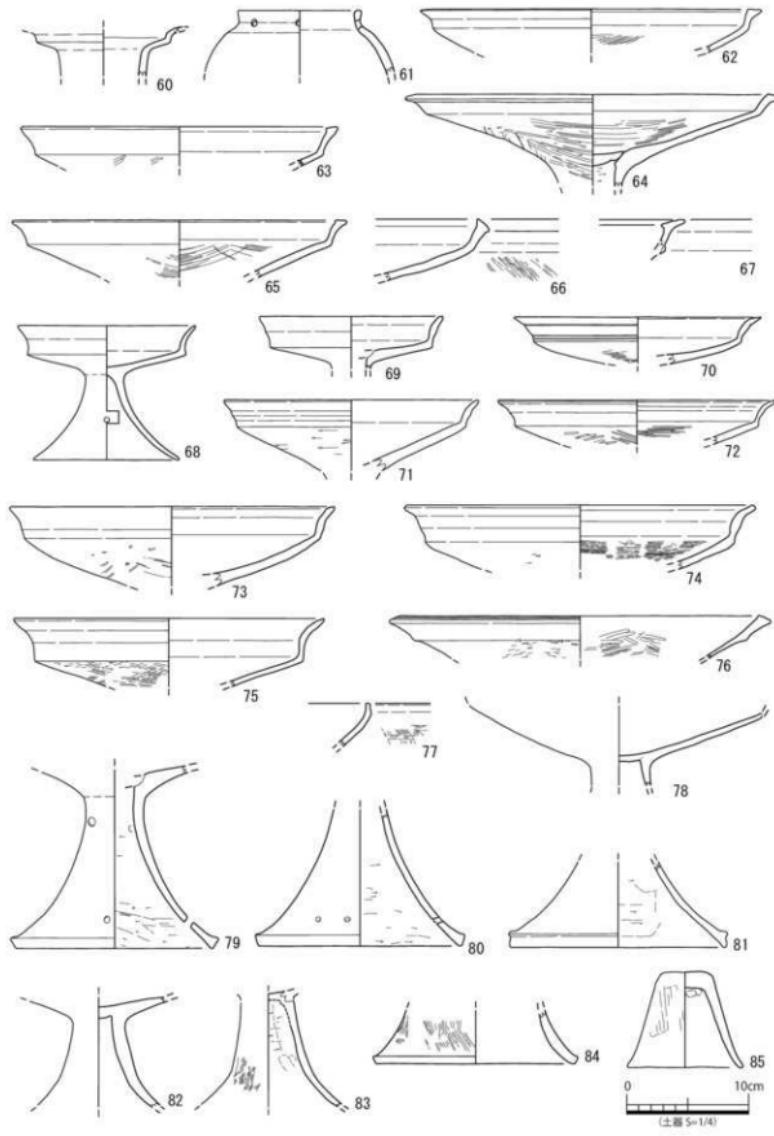


図 10 SD01 出土土器 3

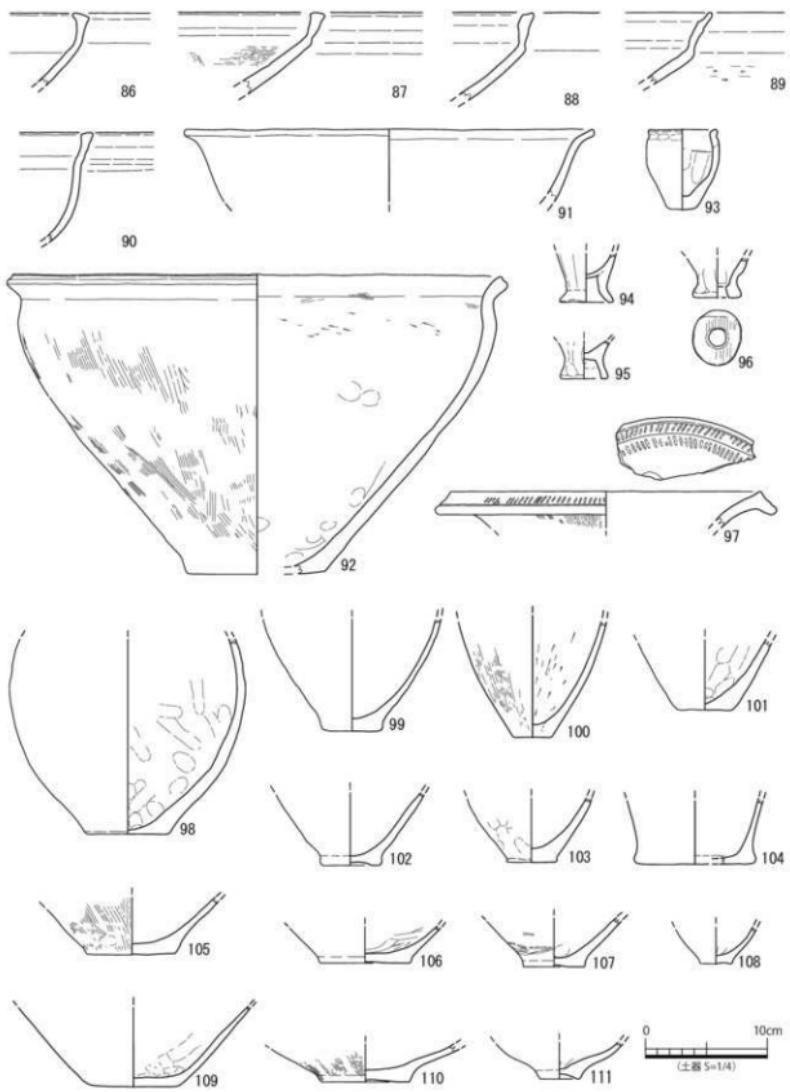


図11 SD01出土土器4

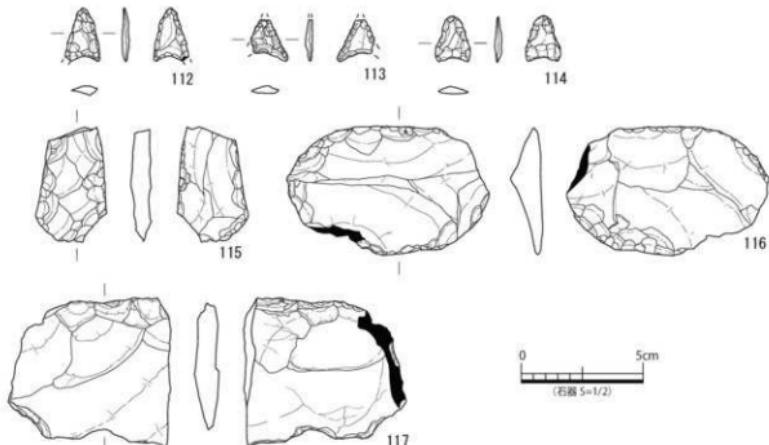


図 12 SD01 出土石器

状文が施される。48は頸部が直線的に立ち上がり、口縁部付近でやや外反する。内面に指才サエが残る。49～51は頸部から口縁部にかけて屈曲するものである。49は香東川下流域産土器と同様の胎土をもつ。頸部から口縁部へと逆ハ字状に開き、口縁端部を摘み上げる。内外面にナデ調製を施し、器面を平滑に仕上げている。50は頸部から口縁部にかけては49と同じプロポーションであり、口縁端部をコ字状に仕上げる。内面には成形時のシボリ目が残る。51は頸部から口縁部にかけての屈曲が明瞭であり、口縁端部が肥厚する。52～59は広口壺である。52は口縁部が逆ハ字状に開く。口縁端部は上下に拡張し、垂下した部分には粘土の貼付痕がみられる。53は頸部が内傾し、口縁部は水平方向に開く。頸部外面に板ナデ調整、口縁部外面にタタキが施される。54～57はいわゆる香東川下流域産土器であり、いずれも口縁端部が肥厚している。58は口縁部外面に凹線が残り、59は口縁部外面に円形浮文が施される。60は二重口縁壺である。香東川下流域産土器と同様の胎土を用い、内外面にナデ調整を施し、器面を平滑に仕上げる。61は短頸壺であり、頸部に穿孔がなされる。

62～85は高坏である。62～75、79～81はいわゆる香東川下流域産土器である。坏部は全て浅めであり、口縁端部が肥厚するもの（62～67）と口縁部を丸くおさめるもの（68～75）がある。外面には削り調整後にミガキ調整を施し、内面はミガキ調整のみが施されるものが多い。脚部はいずれも端部が肥厚し、内面には削り調整が観察される。76は坏部に段をもち、口縁端部には凹線が残る。77は坏部端が短く直立する。外面には刷毛目がみられる。86～90はいわゆる香東川下流域産土器の高坏または鉢の口縁部である。86～88は口縁端部が肥厚し、90、91は口縁端部をまるくおさめる。91、92は大型鉢である。92は全体の2/3程度残存する。底部の形状は平底であり、口縁端部に凹線が残る。

93はミニチュア土器であり、手づくねで成形される。94～96は製塩土器である。96は底部外面を板ナデ調整した後に棒状工具で穿孔する。97は器台もしくは広口壺の口縁部と考え

られる。口縁部は緩やかに開き、口縁部内外面には斜線文が施される。

98～111は底部である。全て平底であり、底部の開きが小さいもの（98～104）と大きなもの（105～111）がみられる。

石器 112～114はサヌカイト製の凹基式打製石鏃、115～117はサヌカイト製の石核である。

所属時期 1～4は口縁部形状から弥生時代前期後半～中期初頭（讃岐I-3～II-2）と考えられる。5～29、32～111は高坏、甕の口縁部が肥厚するものが多いことや、底部が平底を呈することから弥生時代後期前葉と考えられる。30、31は底部が丸みを帯び、弥生時代終末と考えられる。1～4、30、31は出土量が少なく、混入品である可能性が高い。

SR01 調査区南東隅で検出された幅約6～7m、深さ約1m以上の流路である。南から東へと蛇行しながら流れる。流路の西側では幅0.2～1m、深さ5cm程度の小溝が合流する。

検出時には遺構の性格が不明だったため、まず南端部を幅1m程度の断ち割りトレーナーを設定し、人力による掘削を行った。その結果、埋土の堆積状況や土層断面から自然流路であることが明らかになった。また、断ち割りトレーナー内では最下層においても弥生時代後期と古代の遺物が出土していることから、遺物の一括性はないことが判明した。自然流路であること、遺物の一括性がないことを踏まえ予算と日数を考慮し、南側半分は人力掘削、北側半分は重機で慎重に掘削し遺物を回収するという調査方法をとった。

流路の埋土は、地山ブロックの有無によって大別される。図13の1～5層は多量の地山ブロックをランダムに含んでおり、人為的に周囲の地山を掘削し、流路を埋めたことによって堆積した可能性がある。一方、6層以下では、地山ブロックをほとんど含まない。また、各層の粒度が均質であり、ラミナが観察される場合が多いことから、6層以下は自然堆積したものと考えられる。6層以下の堆積状況をさらに詳細に観察すると、粘土～シルトの粒度の細かい砂によって構成される層（図13の6、9、11、13、15、16）と中粒砂～極粗粒砂の粒度の粗い砂によって構成される層（図13の7、8、10、12、14）が交互に堆積する。前者は水流が緩やかな状態、後者は水流が急な状態で堆積したものと考えられ、SR01は水流の緩急を繰り返しながら、長期間かけて埋没したと推測される。なお、流路断面の東隅では半円形の掘り込み（図13の1層）が確認されており、流路の埋没後に新たな遺構が掘り直された可能性がある。

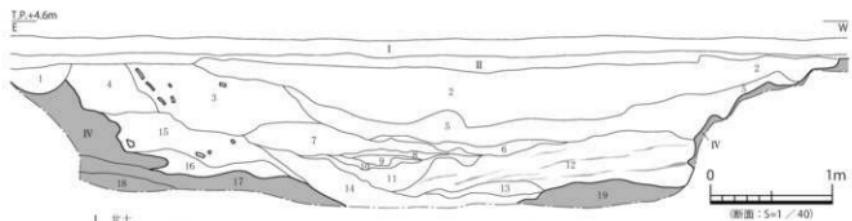
SR01 出土遺物

土器 各層から弥生時代中期、後期、古代の遺物が出土した。

118～124は甕である。118は逆L字形口縁甕であり、外面には6条のヘラ描き沈線がみられる。119～121はいわゆる香東川下流域産土器の甕である。122～124はく字形口縁をもつ甕である。124は外面に横方向のハケ目がみられる。

125～127は壺である。125は長頸壺、126、127は広口壺であり、125、126はいわゆる香東川下流域産土器である。127は口縁端部に凹線が残る。

128～132は高坏である。129～131はいわゆる香東川下流域産土器である。いずれも坏部は浅い。128は端部に凹線が残り、129、130は端部を丸くおさめる。132は高坏の脚部である。脚は短く、脚部内面に横方向のハケ目がみられる。133～135は鉢である。133、135は外反口縁をもつ。134は素口縁であり、体部がボウル形を呈する。



- I 士土
 II 2. 3V4/2 墓灰黄色 細粒砂質じりシルト (近世～近代の造成)
 10V3/6 黄褐色土ブロック 40% 含む
 III 10V3/6/1 地灰色 シルト 10V3/6 黄褐色ブロック 40% 含む
 IV 2. 3V7/1 白色 粘土 2. 3V7/4 浅黃褐色ブロック 10% 含む (地山)
 1. 10V2/2 黒褐色 シルト 5cm前後の地山由来のブロックを1%程度含む
 2. 10V3/2 黒褐色 シルト 5cm前後の地山由来のブロックを1%程度含む
 3. 10V3/2 黒褐色 細粒粘土
 4. 10V3/6 黃褐色 シルト
 5. 10V3/6 黄褐色 細粒砂～中粒砂 1cm程度の地山ブロック 1%程度含む
 6. 10V3/6 黄褐色 中粒砂
 7. 10V2/1 黑色 シルト
 8. 10V2/1 黑色 粘土
 9. 2. 3V3/2 黑褐色 粗粒砂
10. 10V2/1 黑色 細粒粘土
 11. 2. 3V4/2 墓灰黄色 細粒粘土
 12. 2. 3V2/1 黑色 シルト 2. 3V4/2 墓灰黄色細粒砂質じり
 13. 7. 3V2/1 黑色 粗粒砂 5mm前後の礫を含む
 14. 10V1/2/1 黑色 シルト
 15. 10V1/2/2 黑褐色 中粒砂 1～2cm大の礫を 1%含む
 2. 3V2/2 黑褐色 細粒粘土
 17. 5. 3V3/2 墓灰黄色 粗粒砂
 18. 2. 3V1/2 墓灰黄色 粗粒砂
 19. 10V4/4 黄褐色 細粒粘土 5cm大の礫を含む

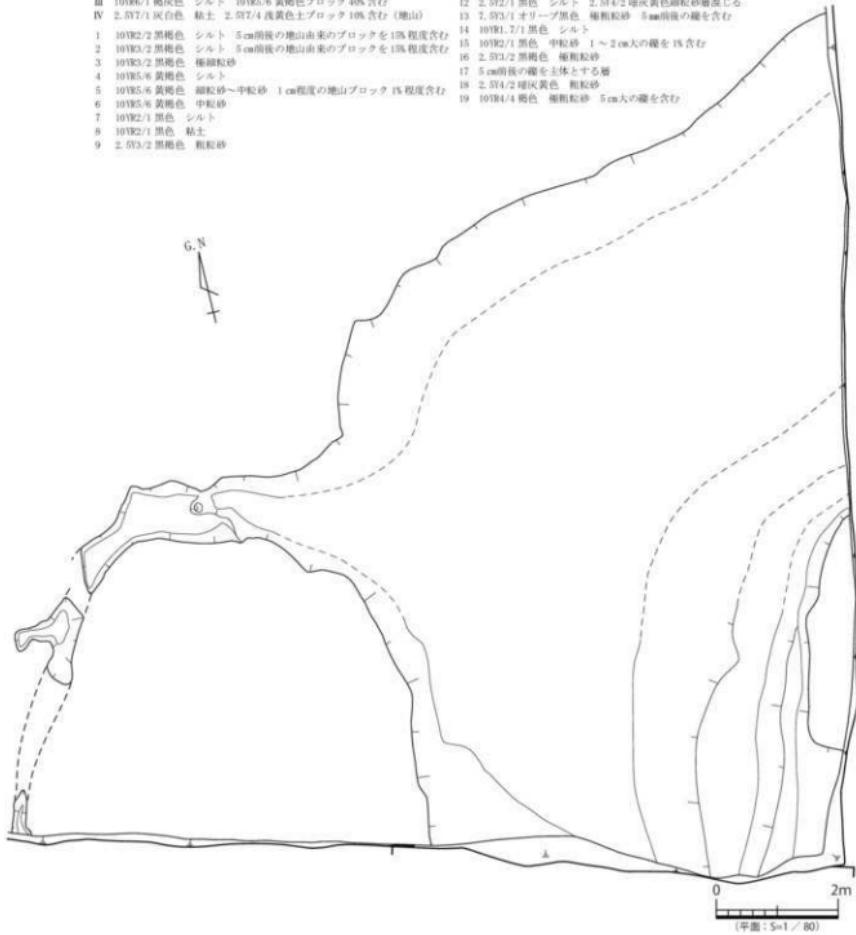


図 13 SR01 平断面図

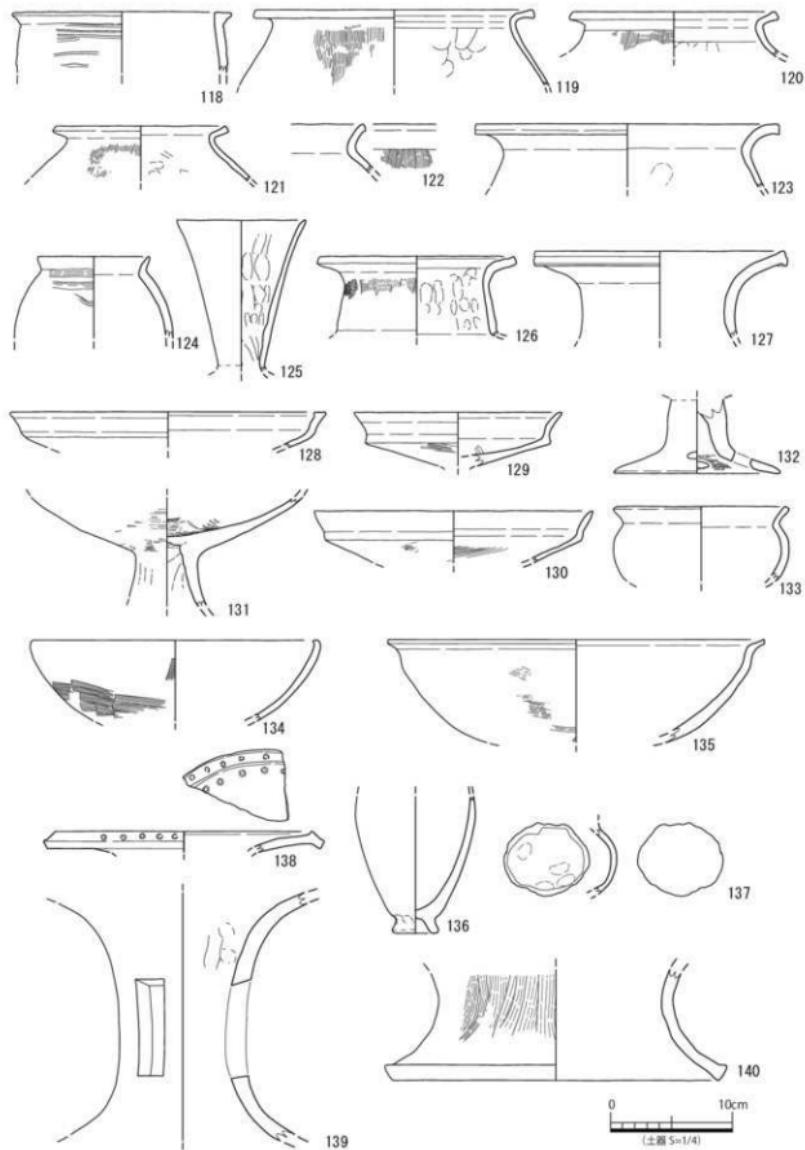


図 14 SR01 出土土器 I

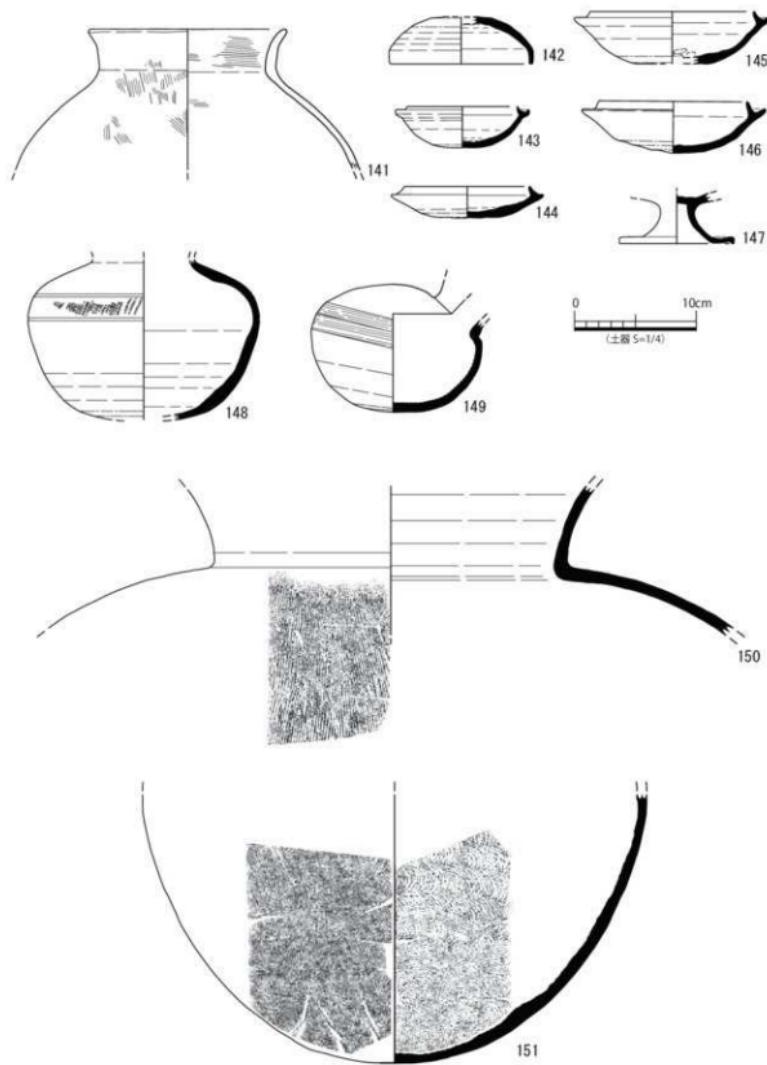


図 15 SR01 出土土器 2

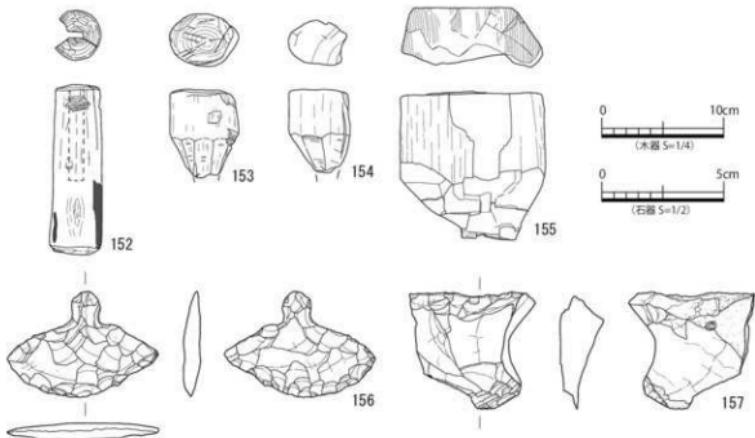


図 16 SR01 出土木器・石器

136は製塩土器である。ハ字形に小さく開く脚部に内湾ぎみに立ち上がる体部をもつ。137はミニチュア土器であり、体部内面には光沢をもつ茶褐色の付着物がみられる。付着物の塗膜構造調査を実施したところ、付着物の成分は鉄錆であることが明らかになった（第IV章参照）。また、付着物表面の観察では人為的な痕跡は確認されなかったことから、埋土中の鉄分が土器表面に沈着したものと考えられる。

138は広口壺もしくは器台の口縁部であり、口縁部内外面に竹背文が施される。139、140は器台である。139は上下対称に開き、くびれ部には方形の透かしが施される。140は脚部にかけて外反ぎみに開き、端部が肥厚する。外面には縦方向のハケ目がられる。

141は土師器壺の口縁部である。肩部の形状はナデ肩を呈し、口縁部は緩やかに外反する。内外面にハケ調整を施す。

142～151は須恵器である。142は坏蓋である。口径約11cmであり、天井部外面を回転ヘラ削り調整、その他を回転ナデ調整によって調整する。143～146は坏身である。143、144は口径9～10cm、145、146は口径12～13cmである。いずれも立ち上がりが短く内傾する。147は高坏の脚部である。脚部は強く外反し、端部が折り曲げられている。内外面に回転ナデ調整が施される。148は短頸壺である。肩部が張り出し、断面形は四角形に近い。肩部に列点文が施される。底部に回転ヘラ削り調整、その他の部分には回転ナデ調整が施される。149は平瓶である。体部は椭円形であり、天井部にふくらみがある。体部外面に横方向のハケ目が施される。底部に回転ヘラ削り調整、体部内外面に回転ナデ調整が施される。150、151は大型壺である。150は外面にタタキ調整、内面にはナデ調整が施される。151は壺の底部から体部と考えられる。球形を呈し、外面に格子目のタタキ痕、内面に青海波紋が残る。

木器 152は鑿柄である。直径4cm、長さ14cmを測る。木口は両面とも加工され、一方には長辺1.3cm、短辺6mm、深さ約8cmの長方形の穿孔がみられる。側面には表皮が残存し、上端部に横方向の切り込みがみられる。153、154は木鎌である。いずれも直径約5cmであり、

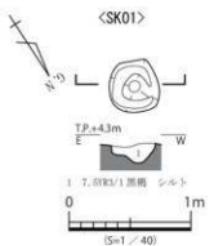


図 17 SK01 平断面図

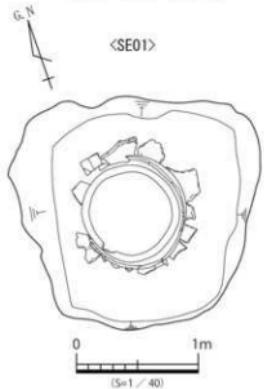


図 18 SE01 平面図

端部の一方を円錐状に削り込む。木口には加工痕が残る。155は板材である。木口と側面端部の一方に粗い加工痕が残る。

石器 156はサヌカイト製の石匙、157はサヌカイト製の石核である。

種子 平面広楕円形、側面楕円形を呈する種子が4点出土した。いずれも表面に不規則なしわがみられることからモモの種子と考えられる(図版5-14)。

所属時期 118は外面の沈線が多条化していることから弥生時代中期初頭(讃岐II-1様式)、119~123、125~140は器台や香東川下流域産土器の細頸壺の存在から、弥生時代後期前葉~中葉と考えられる。142~151は壺身受部の形状や平瓶の体部形状等から7世紀前半(田辺編年TK217型式相当)と考えられる。152~154は、坂出市下川津遺跡第1低地帯流路2で類似品が確認されている[香川県教育委員会1990]。流路の埋没時期は7~8世紀前葉であり、本遺構ではTK217型式の須恵器に伴うものと考えられる。

SK01 調査区南西、SD01の西側で検出した直径約40cm、深さ約20cmの土坑である。埋土は黒褐色シルト層である。遺物は出土していない。

SE01 陶質枠を使用した井戸である。調査区北西でSD01を切って検出された。掘り方の平面形は隅丸台形であり、北側幅1.8m、南側幅1.3m、南北長1.8mを測る。陶質枠は外径約80cmを測り、縦に3つ以上上積み上げた状態で検出された。上段の陶質枠が下段の陶質枠を飲み込み、結合部には板石や瓦を噛ませていた。藏本晋司氏による香川県内出土の井戸の編年研究を参照すると、専用陶質枠の出現時期は19世紀中葉であり[藏本2020]、本遺構は19世紀中葉以降の所産とみられる。

【参考文献】

- 香川県教育委員会 1990『下川津遺跡』
- 藏本晋司 2020「香川県下の井戸についての基礎的検討」『三殿北遺跡』香川県教育委員会
- 田辺昭三 1966『陶色古窯址群I』平安学園考古学クラブ
- 町田章・上原真人 1985『木器集成図録』近畿古代編 奈良国立文化財研究所
- 真鍋昌宏 2000『2讃岐地域』『弥生土器の様式と編年 四国編』木耳社

第IV章 自然科学分析の成果

高松市木太小原遺跡出土土器の塗膜構造調査

株吉田生物研究所

1.はじめに

高松市に所在する、木太小原遺跡から出土した土器 1 点について、表面に付着した物質の材質を明らかにする目的で塗膜構造調査を行った。以下にその結果を報告する。

2.調査資料

調査した資料は、表 1 に示す弥生～古墳時代の土器 1 点である（写真 1）。

表 1 調査資料

No.	器種	写真 No.	概要
1	土器（片）	1	土器の内面に広く遺存し、光沢のある淡褐色を呈する。



(— : サンプリング位置)
(← : 蛍光 X 線分析位置)

写真 1 No. 1 内面

3.調査方法

表 1 の資料本体の塗膜付着部分から数mm四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片ブレバラートを作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。また、バーキンエルマー社製、FT-IR 分析装置 Spectrum One を用いて、有機質の有無を調査した。

加えて付着物が錆であるか否かを確認するために付着物端部の茶褐色部分で蛍光 X 線分析を行った。装置は AMETEK 製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 SPECTRO MIDEX04 を用いた。

4.調査結果

4・1.断面観察

塗膜断面の観察結果を以下の文章に示す。

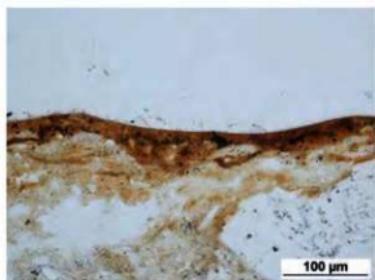


写真2 No. 1 内面の断面

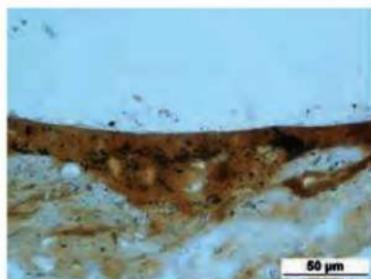


写真3 No. 1 内面の断面 写真2 の拡大

塗膜構造：下層から、胎部、付着物が観察された。胎部の上に下地は見られなかった。

付着物：土器の胎部の上に淡褐色を呈する厚みをもった物質が付着している。夾雜物も見られ精製されていない様子を示す。色調は漆のそれよりも濃い。表面は漆の表面ほど平滑ではなく、人為的に塗布された様にも見られない（写真2,3）。

4・2.FT-IR 分析

以下にスペクトル図を示す。

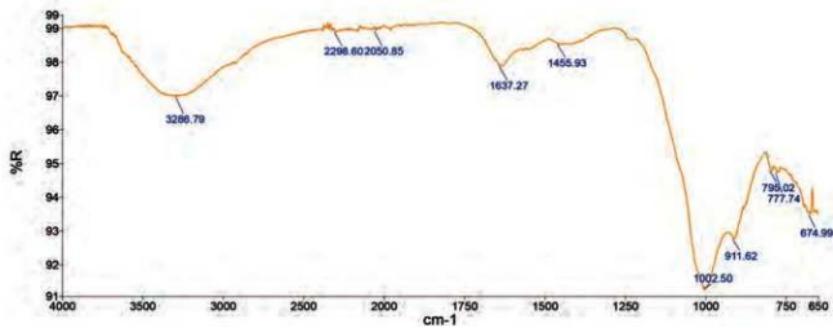


図19 資料のスペクトル

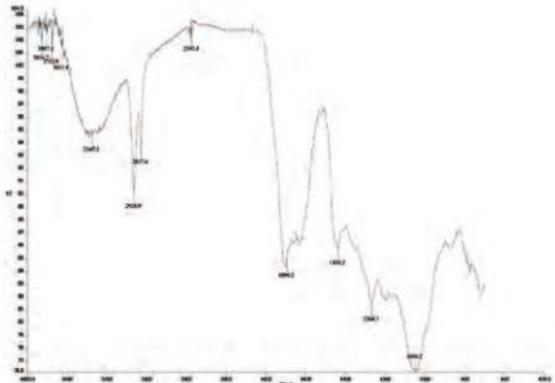


図 20 現生漆のスペクトル

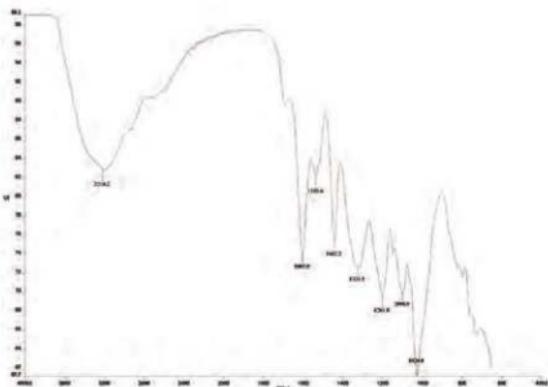


図 21 現生柿渋のスペクトル

以上の通り、資料には有機質の波形が見られるが、参考に示した漆に見られる 2900 付近と 1600 付近の吸収や柿渋に見られる 1600 付近や 1400、1300 付近の吸収に類似する特徴的な吸収は見られなかった。

4・3. 蛍光 X 線分析

以下にスペクトル図と結果表を示す。

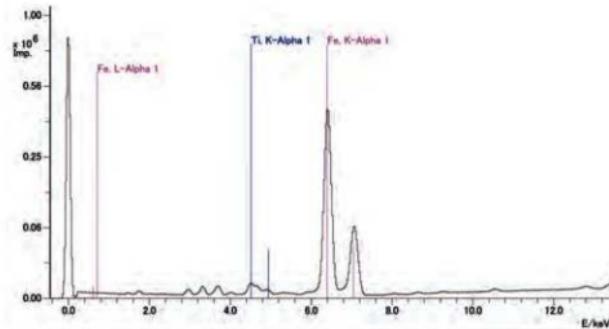


図 22 土器の付着物

表 2 結果表

付着物(wt%)	
Ti	1.55
Fe	93.14

ほぼ鉄(Fe)が占める検出が見られた。

5.摘要

高松市の木太小原遺跡から出土した土器壺の内面の物質について塗膜分析、FT-IR分析及び螢光X線分析を行った。

付着物表面の観察では人為的な痕跡は確認されなかった。断面観察では、漆の塗膜とはやや異なる様子であった。次にFT-IR分析を行い、そのスペクトル図の比較から、現生の漆や柿渋のそれとは異なっていた。別の有機質と考えられるが材質の同定は出来なかった。

螢光X線分析の結果から、付着物端部の茶褐色部分については鉄錆が付着していると推察される。

第V章 総括

弥生時代後期

SD01、SD02、SR01が該当する。SD01からは多量の弥生土器が出土した。出土土器のほとんどは弥生時代後期前葉の特徴をもつものであった。土器の出土量が多く、当該期の器種がおおむね揃うことから、周辺に集落が存在したものと考えられる。遺跡周辺では、旧河道を挟んだ東西に微高地が存在し(図23)、この微高地上で集落が営まれていた可能性がある。ただ、西側の微高地では、試掘調査で遺構が確認されておらず、集落が存在しなかったか、後世に削平を受けて消滅したものと考えられる。

SD01から出土した土器の多くはいわゆる香東川下流域産土器であった。甕の口縁部のうち全体の1/8以上残存するものをカウントし、その比率を調べたところ、香東川下流域産土器とその他の甕の割合はおよそ7:3であった。香東川下流域産土器の出土頻度は太田下・須川遺跡、上天神遺跡を中心とした半径3km以内の範囲で高く、この範囲は主要供給圏と言われる(大久保1995、2003)。香東川下流域産土器の出土頻度は主要供給圏からの距離に応じて変化すると言われ、主要供給圏から3km以内の範囲では3~7割、高松平野周辺では2~3割となるようである。木太小原遺跡は主要供給圏から3km以内の地点に位置しており、距離に応じた比率を示すことが明らかになった(図24)。

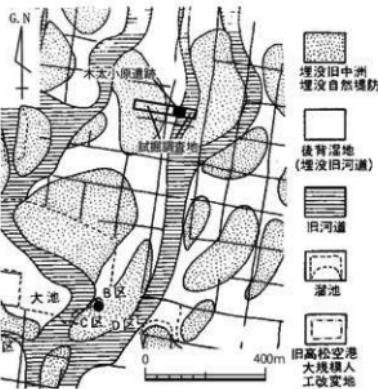


図23 木太小原遺跡周辺の旧地形

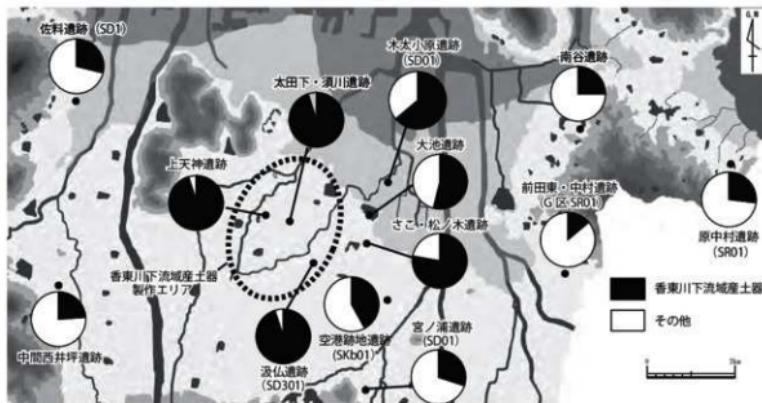


図24 香東川下流域産土器の出土頻度

古代

SR01 が該当する。SR01 からは弥生時代中期、弥生時代後期、古代（7世紀前半）の土器が出土しており、長期間機能した後、7世紀前半に埋没したと考えられる。流路上半ではラミナ状の堆積がみられず、地山ブロックがランダムに含まれていたことから、最終的には人為的に埋められた可能性がある。

近世末～近代

SE01 が該当する。SE01 は陶質枠を利用した井戸である。同様のものが木太中村遺跡においても検出されおり〔香川県教育委員会 2009〕、当該期には遺跡周辺が居住城として利用されていたと考えられる。

【参考文献】

- 大久保徹也 1995 「上天神遺跡の「在地」土器と「搬入」土器」『上天神遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県
埋蔵文化財調査センター・建設省四国地方建設局
大久保徹也 2003 「高松平野香東川下流域産土器の生産と流通」『初期古墳と大和の考古学』学生社
香川県教育委員会 2009 『木太中村遺跡 文京町二丁目西遺跡』

表3 遺物観察表1

番号	直横	種類 器種	部位	法量(cm) (推定値) (残存量)	調整		色調	粘土	焼成	備考
					外面	内面				
1 SD01	弥生土器 甕	頭部～口縁部	口径：~ 底径：~ 肩高：[3.5]	糊縫直溝文、 ナデ	ナデ		[外]にぶい黄橙 10YR6/3 [内]にぶい黄橙 10YR7/4 3mm以下の石英・長 石含む	青	良	前期後半～中期初期 (調査I-3～II-2)
2 SD01	弥生土器 甕	頭部～口縁部	口径：~ 底径：~ 肩高：[3.45]	マメツ、剥離、 剥離	ナデ、マメツ 剥離		[外]にぶい黄橙 10YR7/3 [内]にぶい黄橙 10YR7/3 3mm以下の石英・長 石含む	青	良	前期後半～中期初期 (調査I-3～II-2)
3 SD01	弥生土器 甕	頭部～口縁部	口径：~ 底径：~ 肩高：[3.0]	ナデ、マメツ	ナデ		[外]にぶい黄橙 5YR7/4 [内]にぶい黄橙 10YR7/2 2mm以下の石英・長 石・赤色粒・黒色粒 含む	青	良	前期後半～中期初期 (調査I-3～II-2)
4 SD01	弥生土器 甕	頭部～口縁部	口径：~ 底径：~ 肩高：[1.5]	マメツ	マメツ		[外]にぶい黄橙 10YR6/3 [内]にぶい黄橙 10YR6/3 3mm以下の石英・長 石・黒色粒含む	青	良	前期後半～中期初期 (調査I-3～II-2)
5 SD01	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径：(15.0) 底径：~ 肩高：[6.0]	マメツ、ハケ	マメツ、指オサエ		[外] 橙 7.5YR6/6 [内]にぶい黄橙 7.5YR5/4 1mm以下の石英・長 石・角閃石・赤色粒 金雲母含む	青	良	B類土器 内外面・黒底あり 白砂多め
6 SD01	弥生土器 甕	頭部～口縁部	口径：(13.2) 底径：~ 肩高：[5.2]	ナデ、ハケ、指 オサエ	ナデ、指オサエ オサエ		[外]にぶい黄橙 7.5YR6/4 [内]にぶい黄橙 7.5YR6/4 1mm以下の石英・長 石・赤色粒・黒母石 含む	青	良	香東川下流域土器
7 SD01	弥生土器 甕	頭部～口縁部	口径：(17.6) 底径：~ 肩高：[4.6]	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ナデ、 指オサエ		[外] 明褐色 7.5YR5/6 [内]にぶい黄橙 7.5YR5/4 1mm以下の石英・長 石・角閃石・金雲母・ 赤色粒含む	青	良	香東川下流域土器
8 SD01	弥生土器 甕	頭部～口縁部	口径：(19.4) 底径：~ 肩高：[3.5]	ナデ	ナデ、沈泡一筋、 指オサエ		[外] 明褐色 7.5YR5/6 [内]にぶい黄橙 7.5YR6/4 3mm以下の石英・長 石・赤色	青	良	香東川下流域土器
9 SD01	弥生土器 甕	頭部～口縁部	口径：(15.2) 底径：~ 肩高：[2.7]	ナデ、指オサエ	ナデ		[外] 橙 7.5YR6/6 [内]にぶい黄橙 10YR7/3 2mm以下の石英・長 石・赤色粒含む	青	良	香東川下流域土器 接合痕
10 SD01	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径：(16.2) 底径：~ 肩高：[6.4]	ヨコナデ、ナデ、 ハケ	ヨコナデ、ハケ、 指オサエ		[外]にぶい黄橙 7.5YR6/4 [内]にぶい黄橙 7.5YR6/4 1mm以下の石英・長 石・黒色粒・金雲母・ 赤色粒含む	青	良	香東川下流域土器
11 SD01	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径：(27.0) 底径：~ 肩高：[7.7]	ナデ、マメツ クリ	ナデ、マメツ、クリ		[外]にぶい黄橙 10YR6/4 [内]にぶい黄橙 10YR7/3 4mm以下の石英・長 石・黒色粒含む	青	良	香東川下流域土器 外面・口縁部内面・ 黒斑あり
12 SD01	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径：(14.0) 底径：~ 肩高：[7.0]	ナデ、ハケ	ナデ、指オサエ		[外]にぶい黄橙 7.5YR5/4 [内] 明褐色 7.5YR5/6 2mm以下の石英・長 石・赤色粒・黒母石・ 角閃石含む	青	良	香東川下流域土器
13 SD01	弥生土器 甕	頭部～口縁部	口径：(15.4) 底径：~ 肩高：[3.8]	ナデ、ハケ	ナデ、ヘラケクリ		[外]にぶい黄橙 2.5YR6/3 [内]にぶい黄橙 10YR5/3 3mm以下の石英・長 石・角閃石含む	青	良	香東川下流域土器
14 SD01	弥生土器 甕	頭部～口縁部	口径：(14.8) 底径：~ 肩高：[3.5]	ヨコナデ	ヨコナデ		[外]にぶい黄橙 7.5YR6/3 [内]にぶい黄橙 7.5YR6/3 1mm以下の石英・長 石・角閃石・赤色粒 含む	青	良	香東川下流域土器
15 SD01	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径：(15.6) 底径：~ 肩高：[7.8]	ナデ、ハケのち ナデ(ヨコナデ)、 ハケ(単位不明 跡)、マメツ	ナデ、マメツ ナデ、指オサエ		[外]にぶい黄橙 7.5YR6/4 [内]にぶい黄橙 10YR7/2 5mm以下の石英・長 石含む	青	良	香東川下流域土器 内面・黒斑あり
16 SD01	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径：(14.6) 底径：~ 肩高：[6.4]	ハケ(マメツ)、 ナデ	ナデ、指オサエ(マ メツ)	[外] 明褐色 7.5YR5/6 [内]にぶい黄橙 7.5YR6/3 4mm以下の石英・長 石・2mm以下の赤色 粒含む	青	良	香東川下流域土器	
17 SD01	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径：(14.3) 底径：~ 肩高：[6.3]	ナデ、ハケのち ナデ、マメツ	ナデ、指オサエのち ナデ	[外]にぶい黄橙 7.5YR6/4 [内]にぶい黄橙 7.5YR6/4 2mm以下の石英・長 石・赤色粒含む	青	良	香東川下流域土器	
18 SD01	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径：(14.0) 底径：~ 肩高：[6.0]	ナデ	ナデ、指オサエ	[外] 橙 7.5YR6/6 [内] 橙 7.5YR6/6 2mm以下の石英・長 石・赤色粒含む	青	良	香東川下流域土器	
19 SD01	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径：(13.4) 底径：~ 肩高：[5.6]	ナデ	指オサエのちナデ	[外]にぶい黄橙 7.5YR6/3 [内]にぶい黄橙 10YR6/3 2mm以下の石英・長 石・赤色粒含む	青	良	香東川下流域土器	
20 SD01	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径：(14.0) 底径：~ 肩高：[14.4]	ナデ、ハケ、マ メツ	ナデ、指オサエ、 ケクリ	[外]にぶい黄橙 7.5YR6/4 [内]灰黄橙 10YR6/2 2mm以下の石英・長 石・赤色粒・金雲母・ 角閃石含む	青	良	香東川下流域土器	

表4 遺物観察表2

番号	遺構	種類 器種	部位	法量 (cm) 〔推定値〕 〔残存量〕	調査		紹介	後成 備考
					外面	内面		
21	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径: (13.7) 底径: ~ 器高: [11.9]	ハケ (マメツ)、 ナダ	指オサエ (マメツ)、 ナダ、ヘラケズリ	【外】 横7.5VR6/6 【内】 横7.5VR6/6	青 杏東川下流域甕土器
22	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径: (17.6) 底径: ~ 器高: [7.8]	マメツ	マメツ、指オサエ	【外】 明赤褐色5YR5/6 【内】 明赤褐色5YR5/6	青 杏東川下流域甕土器
23	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径: (15.6) 底径: ~ 器高: [10.4]	ヨコナダ。マメ ツ	ヨコナダ。マメ ツ	【外】 横5YR6/6 【内】 横5YR6/6	黄 杏東川下流域甕土器
24	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径: (14.7) 底径: ~ 器高: [6.45]	ヨコナダ。マメ ツ、ハケ	ヨコナダ。指オサエ ハケ	【外】 にぶい黒7.5VR5/4 【内】 黒黄褐色10YR6/2	青 杏東川下流域甕土器
25	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径: (15.2) 底径: ~ 器高: [5.6]	ナダ、マメツ	ナダ、指オサエの ちナダ	【外】 横5YR6/6 【内】 にぶい黒5YR5/4	青 杏東川下流域甕土器
26	S001	弥生土器 甕	底部	口径: ~ 底径: (6.1) 器高: [4.9]	ヘラミガキ。ナ ダ	ナダ、マメツ	【外】 にぶい黄褐色10YR6/3 【内】 黄褐色10YR6/2	青 杏東川下流域甕土器 底部: 黑斑あり
27	S001	弥生土器 甕	底部	口径: ~ 底径: (6.0) 器高: [4.9]	ヘラミガキ	マメツ	【外】 黒褐色2.5Y5/1 【内】 黑褐色2.5Y5/2	青 杏東川下流域甕土器
28	S001	弥生土器 甕	底部	口径: ~ 底径: (6.4) 器高: [3.6]	ヘラミガキ。ナ ダ	マメツ	【外】 にぶい黄褐色10YR6/3 【内】 にぶい黄褐色10YR6/2	青 杏東川下流域甕土器
29	S001	弥生土器 甕	底部	口径: ~ 底径: (5.8) 器高: [2.8]	ヘラミガキ。ナ ダ	マメツ	【外】 にぶい黄褐色10YR6/3 【内】 にぶい黄褐色10YR6/3	青 杏東川下流域甕土器
30	S001	弥生土器 甕または 壺	底部	口径: ~ 底径: (7.0) 器高: [7.0]	ミガキ、ナダ	ケズリのちナダ、 ナダ	【外】 にぶい黄褐色10YR6/4 【内】 にぶい黄褐色10YR6/4	青 杏東川下流域甕土器
31	S001	弥生土器 甕または 壺	底部	口径: ~ 底径: (5.35) 器高: [3.2]	マメツ	マメツ	【外】 横7.5VR6/6 【内】 にぶい黄褐色10YR6/3	青 杏東川下流域甕土器
32	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径: (14.5) 底径: ~ 器高: [9.0]	ハケ、マメツ	ケズリ、マメツ	【外】 にぶい黄褐色10YR7/3 【内】 黑白10YR8/2	3mm以下の石英・長 石・赤色粒・黒色粒 含む
33	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径: (21.0) 底径: ~ 器高: [7.3]	ナダ、ハケのち ナダ	ナダ	【外】 にぶい黄褐色10YR7/2 【内】 にぶい黄褐色10YR7/2	青 内面: 黑斑あり
34	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径: (12.8) 底径: ~ 器高: [11.5]	ヨコナダ。タタ キのちナダ。マ メツ	ヨコナダ。マメツ	【外】 黄褐色10YR8/4 【内】 黄褐色10YR8/4	3mm以下の石英・長 石多量、2mm以下の 赤色粒含む
35	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径: (14.0) 底径: ~ 器高: [9.5]	マメツ (所々剥 離)	マメツ (所々剥 離)	【外】 黑白10YR8/2 【内】 黄褐色7.5VR7/4	2mm以下の石英・長 石含む
36	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径: (15.6) 底径: ~ 器高: [8.7]	ヨコナダ。ヨ コナダ。ナナ ダ。リラ (マメツ) 指オサエ (マメ ツ)	ヨコナダ。ナ ダ	【外】 にぶい黒7.5VR7/3 【内】 にぶい黒7.5VR7/4	2.5mm以下の石英・ 長石含む
37	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径: ~ 底径: ~ 器高: [11.0]	マメツ	マメツ	【外】 黑白10YR8/2 【内】 黄褐色7.5VR8/2	5mm以下の石英・長 石・赤色粒含む
38	S001	弥生土器 甕	頭部～口縁部	口径: ~ 底径: ~ 器高: [3.8]	マメツ	マメツ	【外】 にぶい黄褐色10YR5/2 【内】 にぶい黄褐色5YR5/4	青 外面: 黑斑あり
39	S001	弥生土器 甕	頭部～口縁部	口径: ~ 底径: ~ 器高: [3.9]	マメツ	マメツ	【外】 にぶい黄褐色10YR7/2 【内】 にぶい黄褐色10YR7/2	2mm以下の石英・長 石・赤色粒・黒色粒 含む
40	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径: (14.0) 底径: ~ 器高: [6.05]	マメツ	マメツ、指オサエ (マメツ)	【外】 黄褐色10YR8/3 【内】 黄褐色10YR8/3	青

表5 遺物観察表3

番号	遺構	種類 器種	部位	法量 (cm) 〔推定値〕 〔残存量〕	調整		色調	粘土	焼成	備考
					外面	内面				
41	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:(13.2) 底径:- 肩高:[4.5]	ヨコナデ。指オサエ。	ヨコナデ。指オサエ。	〔外〕にぶい黄橙 10386/4 〔内〕にぶい黄橙 10386/4	青 3 mm以下の石英・長石・金雲母含む	良	
42	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径:(16.0) 底径:- 肩高:[8.1]	ヨコナデ。粗い ハケ	ヨコナデ。ナデ。 ケズリ	〔外〕にぶい黄橙 10387/2 〔内〕にぶい黄橙 10387/2	青 2.5 mm以下の石英・長石・赤色粒含む	良	
43	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:(14.0) 底径:- 肩高:[4.6]	ナデ、タタキ、 ハケ	マメツ、ヘラケズ リ (マメツ)	〔外〕灰白 2.598/2 〔内〕灰白 2.598/1	青 5 mm以下の石英・長石・赤色粒含む	良	
44	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径:(8.6) 底径:- 肩高:[5.1]	ナデ、マメツ	ナデ、指オサエの ちナデ	〔外〕にぶい黄橙 10386/3 〔内〕にぶい黄橙 10386/3	青 3 mm以下の石英・長石・角閃石含む	良	香東川下流域甕土器
45	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径:(21.8) 底径:- 肩高:[5.7]	ナデ	ナデ、ヘラケズリ	〔外〕オリーブ黒 573/1 〔内〕にぶい黄橙 10386/3	青 3 mm以下の石英・長石・雲母含む	良	香東川下流域甕器 外面・口縁部内面: 黒斑あり
46	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:(25.0) 底径:- 肩高:[4.1]	ナデ、マメツ	ナデ、マメツ	〔外〕黒褐色 10381/1 〔内〕灰黒 2.597/2	青 3 mm以下の石英・長石含む	良	口縁部内面: 黒斑あり
47	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:(8.6) 底径:- 肩高:[8.6]	ヨコナデ。ナデ、 波状文	ナデ、ナデ、指オサエ	〔外〕にぶい黄橙 10386/3 〔内〕にぶい黄 7.5986/4	青 1 mm以下の石英・長石・角閃石・赤色粒含む	良	口縁部内面: 黒斑あり
48	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:(13.2) 底径:- 肩高:[10.45]	マメツ	指オサエのちナデ、 マメツ	〔外〕灰黄 2.597/2 〔内〕灰黒 2.597/2	粗 8 mm以下の石英・長石多く含む	良	
49	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:(13.0) 底径:- 肩高:[6.0]	ナデ	ナデ	〔外〕にぶい黄 7.5986/4 〔内〕にぶい黄 7.5986/4	青 3 mm以下の石英・長石、1 mm以下の赤色粒・雲母含む	良	
50	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:(14.0) 底径:- 肩高:[8.0]	マメツ	シボリ、マメツ	〔外〕にぶい黄橙 10387/2 〔内〕浅黄 7.5986/3	青 3 mm以下の石英・長石・赤色粒含む	良	
51	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:(15.2) 底径:- 肩高:[4.6]	ヨコナデ	ヨコナデ	〔外〕にぶい黄橙 10386/4 〔内〕にぶい黄橙 10386/4	青 1.5 mm以下の石英・長石・黒鉄鉱・金雲母・赤色粒含む	良	
52	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:(24.0) 底径:- 肩高:[3.9]	ナデ、指オサエ のちナデ、マメツ (複合痕)	指オサエのちナデ、 ナデ (複合不明瞭) マメツ	〔外〕灰黄褐色 10386/2 〔内〕灰黒 2.597/2	青 3 mm以下の石英・長石多く含む	良	内面: 黒斑あり
53	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:(14.0) 底径:- 肩高:[4.9]	ナデ、タタキの ちナデ、板ナデ (複合痕)	ナデ (ヨコ方向)、 ナデ (タテ方向)、 マメツ	〔外〕灰黄 2.597/2 〔内〕灰黄 2.596/2	青 4 mm以下の石英・長石含む	良	面みあり
54	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:(18.2) 底径:- 肩高:[6.6]	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	〔外〕にぶい黄 7.5986/4 〔内〕にぶい黄 7.5986/4	青 1 mm以下の石英・長石・角閃石・赤色粒・雲母含む	良	口縫端部内面: 黒斑 あり
55	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:(16.8) 底径:- 肩高:[8.0]	ハケ (マメツ)、 ナデ	指オサエ (マメツ) ナデ	〔外〕にぶい黄 7.5985/4 〔内〕にぶい黄 7.5985/4	青 2 mm以下の石英・長石・赤色粒、1 mm以下の雲母含む	良	
56	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:(14.0) 底径:- 肩高:[6.4]	ナデ、ハケのち ナデ	ナデ (タテ方向)、 ケズリのちナデ	〔外〕にぶい黄 7.5986/4 〔内〕にぶい黄 7.5986/4	青 2 mm以下の石英・長石含む	良	
57	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:(17.0) 底径:- 肩高:[2.8]	ナデ、ハケ	ナデ	〔外〕にぶい黄 7.5985/4 〔内〕にぶい黄 7.5985/4	青 2 mm以下の石英・長石・赤色粒、1 mm以下の雲母含む	良	
58	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:(19.4) 底径:- 肩高:[4.5]	ヨコナデ。凹輪 文	ナデ、指オサエ	〔外〕にぶい黄 7.5986/4 〔内〕にぶい黄 10387/2	青 2 mm以下の石英・長石・赤色粒・金雲母・黒色粒含む	良	内面: 黒斑あり
59	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:20.4 底径:- 肩高:[8.3]	指オサエのちハ ケ、貼付文、規 則目、マメツ	マメツ	〔外〕にぶい黄 7.5986/4 〔内〕にぶい黄橙 10387/3	粗 2 ~ 3 mmの石英・長石粒多く含む	良	貼付文: 3 個と 1 個 の部分がある
60	S001	弥生土器 甕	頸部～口縁部	口径:- 底径:- 肩高:[4.0]	ヨコナデ。ナデ	マメツ	〔外〕橙 7.5986/6 〔内〕橙 7.5986/6	青 2 mm以下の石英・長石・金雲母・赤色粒含む	良	
61	S001	弥生土器 甕	体部～口縁部	口径:(10.0) 底径:- 肩高:[5.3]	ヨコナデ。ナデ ナデ?	ヨコナデ、マメツ、 ナデ?	〔外〕灰白 10388/2 〔内〕にぶい黄橙 10387/2	青 1.5 mm以下の石英・長石少、角閃石含む	良	穿孔 2箇所

表6 遺物観察表4

番号	遺構	種類 器種	部位	法量(cm) 〔推定値〕 〔現存量〕	調整		埴土	後成	備考
					外面	内面			
62	S001	弥生土器 高坪	耳部	口径: (28.0) 底径: - 器高: (5.5)	ナデ、マメツ	ヘラミガキ、ナデ	〔外〕に赤い黄褐 10YR6/3 〔内〕に赤い橙 7.5YR6/4	青 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良 香東川下流域陶土器
63	S001	弥生土器 高坪	耳部	口径: (25.8) 底径: - 器高: (3.2)	ナデ、ミガキ	ナデ	〔外〕に赤い黄褐 10YR6/3 〔内〕に赤い黄褐 10YR6/4	青 3mm以下の石英・長石含む	良 香東川下流域陶土器
64	S001	弥生土器 高坪	耳部～頸部	口径: (30.8) 底径: - 器高: (7.5)	ケズリのちヘラ ミガキ(マメツ)、 ナデ	ヘラミガキ(マメ ツ)、ヘラケズリ、 ナデ	〔外〕に赤い橙 7.5YR6/4 〔内〕に赤い黄褐 7.5YR6/4	青 5mm以下の石英・長石・赤色鉻含む	良 香東川下流域陶土器 円盤充填
65	S001	弥生土器 高坪	耳部	口径: (27.1) 底径: - 器高: (4.2)	ヘラミガキ(マ メツ)、ナデ	ヘラミガキ(マメ ツ)、ナデ	〔外〕に赤い橙 7.5YR6/4 〔内〕に赤い橙 7.5YR6/4	青 2mm以下の石英・長石・赤色鉻含む	良 香東川下流域陶土器
66	S001	弥生土器 高坪	耳部	口径: - 底径: - 器高: (5.05)	ナデ	〔外〕灰黄褐 10YR6/2 〔内〕灰黄褐 10YR6/2	青 2mm以下の石英・長石・赤色鉻含む	良 香東川下流域陶土器	
67	S001	弥生土器 高坪	耳部	口径: - 底径: - 器高: (2.8)	ヨコナデ、沈幅 2条	ヨコナデ	〔外〕に赤い黄褐 10YR6/3 〔内〕に赤い黄褐 10YR6/3	精良 1mm以下の石英・長石・赤色鉻含む	良 香東川下流域陶土器
68	S001	弥生土器 高坪	耳部～脚部	口径: (26.15) 底径: - 器高: (11.0)	ナデ、マメツ	ナデ、マメツ	〔外〕明褐色 7.5YR5/6 〔内〕に赤い黄褐 7.5YR6/4	青 4mm以下の石英・長石・角閃石含む	良 香東川下流域陶土器 円孔(穿孔方向: 外面～内面)
69	S001	弥生土器 高坪	耳部	口径: (15.0) 底径: - 器高: (4.3)	マメツ	マメツ	〔外〕褐 7.5YR6/6 〔内〕褐 5YR6/6	青 2.5mm以下の石英・長石・赤色鉻含む	良 香東川下流域陶土器
70	S001	弥生土器 高坪	耳部	口径: (20.2) 底径: - 器高: (3.8)	ナデ、ヘラケズ リ(マメツ)、沈 幅3条	ナデ	〔外〕に赤い橙 7.5YR6/4 〔内〕に赤い橙 7.5YR6/4	青 4mm以下の石英・長石・赤色鉻・雲母含む	良 香東川下流域陶土器
71	S001	弥生土器 高坪	耳部	口径: (20.0) 底径: - 器高: (5.8)	ナデ、ケズリ、 マメツ	ナデ、マメツ	〔外〕に赤い橙 7.5YR6/4 〔内〕に赤い橙 7.5YR6/4	青 2mm以下の石英・長石・黑色鉻含む	良 香東川下流域陶土器
72	S001	弥生土器 高坪	耳部	口径: (22.0) 底径: - 器高: (3.6)	ヨコナデ、ナデ、 ミガキ	ヨコナデ、ナデ、 ミガキ	〔外〕に赤い橙 7.5YR6/4 〔内〕に赤い橙 7.5YR6/4	青 1mm以下の石英・長石・角閃石・赤色鉻含む	良 香東川下流域陶土器 口縁部内面: 黒斑あり
73	S001	弥生土器 高坪	耳部	口径: (26.6) 底径: - 器高: (6.5)	ヨコナデ(マメ ツ)、ケズリのち 分割ミガキ(マ メツ)	ヨコナデ(マメ ツ)、マメツ	〔外〕に赤い橙 7.5YR6/4 〔内〕に赤い橙 7.5YR6/4	青 3mm以下の石英・長石・赤色鉻・5mm大 の縫合む	良 香東川下流域陶土器
74	S001	弥生土器 高坪	耳部	口径: (28.2) 底径: - 器高: (5.2)	ヨコナデ、ケズ リ	ヨコナデ、ハケ	〔外〕に赤い黄褐 10YR6/3 〔内〕灰黄褐 10YR6/2	青 2mm以下の石英・長石・角閃石・赤色鉻・ 金雲母含む	良 香東川下流域陶土器 外面: 黑斑あり
75	S001	弥生土器 高坪	耳部	口径: (25.5) 底径: - 器高: (5.6)	ナデ、ケズリの ちミガキ	ナデ、マメツ	〔外〕に赤い橙 7.5YR6/4 〔内〕に赤い橙 7.5YR6/4	青 3mm以下の石英・長石含む	良 香東川下流域陶土器
76	S001	弥生土器 高坪	耳部	口径: (29.5) 底径: - 器高: (3.5)	ナデ、ヘラケズ リ	ナデ、ミガキ、ハ ケ	〔外〕に赤い黄褐 10YR7/3 〔内〕に赤い黄褐 10YR7/3	青 4mm以下の石英・長石・黑色鉻含む	良 外面: 黑斑あり
77	S001	弥生土器 高坪	耳部	口径: - 底径: - 器高: (3.5)	ナデ、ハケ	マメツ	〔外〕灰白 5YR8/1 〔内〕に赤い黄褐 10YR7/2	青 2mm以下の石英・長石・赤色鉻含む	良
78	S001	弥生土器 高坪	耳部～脚部	口径: - 底径: - 器高: (6.5)	マメツ	マメツ	〔外〕灰 5YR6/8 〔内〕灰 5YR6/6	相 6mm以下の石英・長石・赤色鉻含む	円盤充填
79	S001	弥生土器 高坪	脚部	口径: - 底径: (16.2) 器高: (15.0)	マメツ	ヘラケズリのちナ デ	〔外〕に赤い橙 7.5YR6/4 〔内〕に赤い橙 7.5YR6/4	青 3mm以下の石英・長石・赤色鉻含む	良
80	S001	弥生土器 高坪	脚部	口径: - 底径: (16.6) 器高: (11.2)	ナデ	シボリ、ケズリ	〔外〕に赤い黄褐 10YR6/3 〔内〕に赤い橙 7.5YR6/4	青 1mm以下の石英・長石・微小の角閃石含 む	良 香東川下流域陶土器 耳孔 2箇所
81	S001	弥生土器 高坪	脚部	口径: - 底径: (17.5) 器高: (17.0)	ナデ、ケズリ	ケズリ	〔外〕に赤い黄褐 10YR6/3 〔内〕に赤い橙 7.5YR6/4	青 3mm以下の石英・長石・赤色鉻含む	良 香東川下流域陶土器
82	S001	弥生土器 高坪	脚部	口径: - 底径: - 器高: (9.0)	マメツ	マメツ	〔外〕褐 2.5YR6/8 〔内〕に赤い橙 5YR6/3	青 3mm以下の石英・長石・赤色鉻含む	良
83	S001	弥生土器 高坪	脚部	口径: - 底径: - 器高: (9.5)	ハケ、マメツ	指ナデ、ケズリ	〔外〕浅黄褐 7.5YR6/3 〔内〕浅黄褐 7.5YR6/3	青 1mm以下の石英・長石・黑色鉻・赤色鉻 含む	良

表7 遺物観察表5

番号	遺構	種類 器種	部位	法量(cm) (推定値) 〔残存量〕	調整		色調	胎土	焼成	備考
					外面	内面				
84	S001	弥生土器 高坏	脚部	口径:~ 底径:(16, 2) 留高:[4, 4]	ハケ(マメツ)	マメツ	[外]にぶい黄7.5WRT/3 [内]にぶい黄7.5WRT/3	青 3mm以下の石英・長石・赤色粒含む	良	
85	S001	弥生土器 高坏	脚部	口径:~ 底径:(9, 4) 留高:[4, 4]	ハケ(マメツ)、ナデ	指オサエ、ナデ(マ メツ)	[外]にぶい黄橙10WRT/2 [内]にぶい黄橙10WRT/3	青 5mm以下の石英・長石含む	良	
86	S001	弥生土器 高坏小鉢	口縁部	口径:~ 底径:~ 留高:[6, 0]	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、ナデ	[外]にぶい黄橙10WRT/2 [内]灰黄褐10TRG/2	青 3mm以下の石英・長石・金雲母含む	良	
87	S001	弥生土器 高坏小鉢	口縁部	口径:~ 底径:~ 留高:[6, 7]	回文、ナデ、ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	[外]にぶい黄7.5WRT/4 [内]にぶい黄7.5WRT/4	青 3mm以下の石英・長石・赤色粒・金雲母含む	良好	
88	S001	弥生土器 高坏小鉢	口縁部	口径:~ 底径:~ 留高:[7, 2]	ナデ、ハラケズリ(マメツ)	ナデ	[外]にぶい黄7.5WRT/4 [内]にぶい黄7.5WRT/4	青 5mm以下の石英・長石・赤色粒含む	良	
89	S001	弥生土器 高坏小大 型鉢	脚部	口径:~ 底径:~ 留高:[5, 9]	ナデ、マメツ	ナデ	[外]明赤褐2.5TRG/6 [内]にぶい赤褐5WRT/4	粗 10mm以下の石英・長石・赤色粒含む	良	8種土器
90	S001	弥生土器 高坏小鉢	口縁部	口径:~ 底径:~ 留高:[9, 0]	回文、マメツ	ヨコナデ、マメツ、ナデ	[外]にぶい黄橙10WRT/3 [内]にぶい黄7.5WRT/4	青 5mm以下の石英・長石含む	良	
91	S001	弥生土器 大型鉢	口縁部	口径:(33, 4) 底径:~ 留高:[5, 9]	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、マメツ	[外]浅黄褐7.5TRG/4 [内]浅黄褐7.5TRG/3	粗 4mm以下の石英・長石多量、1mm以下の赤色粒少量化	良好	10種部内面:黒斑あり
92	S001	弥生土器 大型鉢	口縁～底部	口径:(39, 8) 底径:11, 3 留高:24.6	回文、指オサエ、ハケ、指オサエのちナデ、ケズリ	ヨコナデ、指オサエのちナデ	[外]にぶい黄橙10WRT/3 [内]にぶい黄7.5WRT/4	青 3mm以下の石英・長石・角閃石含む	良	
93	S001	弥生土器 ミニチュ ア土器	細部～底部	口径:(15, 4) 底径:(2, 0) 留高:6, 5	ナデ、横合痕	ナデ、指ナデ、指オサエ	[外]灰白10YR8/2 [内]灰白10YR8/2	青 1.5mm以下の石英・長石・赤色粒含む	良好	
94	S001	弥生土器 製塙土器	脚部	口径:~ 底径:4, 4 留高:[4, 0]	ナデ、板ナデツ、指ツミ?	ナデ	[外]にぶい黄褐10YR8/3 [内]にぶい黄橙10WRT/4	青 4mm以下の石英・長石含む	良	
95	S001	弥生土器 製塙土器	脚部	口径:~ 底径:(3, 6) 留高:[3, 1]	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	[外]にぶい黄橙10WRT/4 [内]にぶい黄橙10WRT/4	青 1mm以下の石英・長石含む	良	
96	S001	弥生土器 製塙土器	脚部	口径:~ 底径:3.95 留高:[3, 25]	板状工具による ナデ、マメツ、 板状工具による ナデ-ishくは圧痕	ナデ、板状工具による ナデ	[外]にぶい赤褐5WRT/4 [内]にぶい赤7.5WRT/3	青 4mm以下の石英・長石含む	良	底部:穿孔1箇所
97	S001	弥生土器 器合?	口縁部	口径:(25, 4) 底径:~ 留高:[3, 0]	ナデ、跳み目、ナデ、ハケ、ハケのちナデ、沈縫	ナデ、跳み目	[外]にぶい黄橙10WRT/3 [内]にぶい黄橙10WRT/2	青 2mm以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒含む	良	内面:黒斑あり
98	S001	弥生土器 不明	体部～底部	口径:~ 底径:(7, 0) 留高:[16, 0]	マメツ	指オサエ、マメツ、ナデ	[外]橙5YR7/6 [内]浅黄褐10YR8/4	青(やや相) 6mm以上の石英・長石・赤色粒含む	良	
99	S001	弥生土器 不明	底部	口径:~ 底径:4, 7 留高:[9, 2]	マメツ	マメツ	[外]浅黄7.5WRT/4 [内]灰白10YR8/2	粗 5mm以下の石英・長石・赤色粒含む	良	外側:黒斑あり
100	S001	弥生土器 不明	底部	口径:~ 底径:3, 1 留高:[9, 5]	ハケ(マメツ)、ハラケズリ マメツ	マメツ	[外]黄灰2.5Y4/1 [内]灰白10YR8/2	青 4mm以下の石英・長石・赤色粒含む	良	
101	S001	弥生土器 不明	底部	口径:~ 底径:4, 4 留高:[5, 8]	ナデ、ハラケズリ	指オサエ、ナデ	[外]灰白10YR8/2 [内]灰白10YR8/1	青 3mm以下の石英・長石・赤色粒含む	良好	
102	S001	弥生土器 不明	底部	口径:~ 底径:4, 6 留高:[5, 8]	マメツ	マメツ	[外]灰白10YR8/2 [内]灰白10YR8/2	粗 10mm以下の石英・長石・1mm以下の赤色粒含む	良	
103	S001	弥生土器 不明	底部	口径:~ 底径:4, 0 留高:[5, 2]	マメツ、チヂ	マメツ	[外]施灰10YR8/4 [内]にぶい黄7.5WRT/2	青 4mm以下の石英・長石多量含む	良	
104	S001	弥生土器 不明	底部	口径:~ 底径:(9, 6) 留高:[5, 4]	マメツ	マメツ	[外]にぶい黄7.5WRT/4 [内]にぶい黄7.5WRT/4	粗 4mm以下の石英・長石多量含む	良	

表 8 遺物観察表 6

番号	遺構	種類 器種	部位	法量 (cm) 〔推定値〕 〔残存量〕	調査		色調	胎土	焼成	備考
					外面	内面				
105 SD01	弥生土器 不明	底部	口径 : - 底径 : 7.1 器高 : [4.7]	タテハケ、不明 ケズリのちナデ	[外] 灰 N4/ [内] にぶい黄橙 10YR7/2	黄 5 mm以下の石英・長 石不含む	黄	良		
106 SD01	弥生土器 不明	底部	口径 : - 底径 : (7.4) 器高 : [3.0]	ナデ、ハケのち ナデ	[外] 灰 7.5YR6/6 [内] にぶい黄橙 7.5YR6/4	青 1 mm以下の石英・長 石、赤色粒・黒色粒・ 金雲母含む	青	良	内外面：黒斑あり	
107 SD01	弥生土器 不明	底部	口径 : - 底径 : 5.0 器高 : [4.0]	マメツ、タタ キ？、板ナデ？	[外] 灰黄 2.5Y7/2 [内] 暗灰 N3/	青 6 mm以下の石英・長 石多く含む	青	良		
108 SD01	弥生土器 不明	底部	口径 : - 底径 : 2.6 器高 : [3.0]	マメツ、ナデ	[外] 灰黄 2.5Y7/2 [内] にぶい黄橙 10YR7/2	青 6 mm以下の石英・長 石含む	青	良		
109 SD01	弥生土器 不明	底部	口径 : - 底径 : 7.3 器高 : [6.5]	ナデ	[外] にぶい黄 7.5YR6/3 [内] にぶい黄 7.5YR6/4	青 3 mm以下の石英・長 石・赤色粒含む	青	良		
110 SD01	弥生土器 不明	底部	口径 : - 底径 : 7.2 器高 : [3.1]	ハケのちナデ、 マメツ	[外] 明赤褐色 2.5YR5/6 [内] 暗灰 7.5YR4/1	青 3 mm以下の石英・長 石不含む	青	良		
111 SD01	弥生土器 不明	底部	口径 : - 底径 : 3.2 器高 : [3.0]	ナデ、接合痕	ナデ、工具痕、指 オサエ	[外] 灰自 10YR8/2 [内] 灰自 10YR8/2	青 1 mm以下の石英・長 石・赤色粒含む	青	良	
112 SD01	石器 石織	固基式	現存長 : 2.0 現存幅 : 1.45 現存厚 : 0.3							重量: 0.7g 石材: サヌカイト 一部折損
113 SD01	石器 石織	固基式	現存長 : 1.7 現存幅 : 1.5 現存厚 : 0.3							重量: 0.6g 石材: サヌカイト 一部折損
114 SD01	石器 石織	固基式	現存長 : 1.85 現存幅 : 1.45 現存厚 : 0.25							重量: 0.7g 石材: サヌカイト
115 SD01	石器 石核		現存長 : 4.7 現存幅 : 2.9 現存厚 : 0.8							重量: 12.3g 石材: サヌカイト
116 SD01	石器 石核		現存長 : 5.3 現存幅 : 3.2 現存厚 : 1.2							重量: 60.4g 石材: サヌカイト
117 SD01	石器 石核		現存長 : 6.1 現存幅 : 6.6 現存厚 : 1.0							重量: 51.8g 石材: サヌカイト
118 SB01	弥生土器 甕	口縁～頸部	口径 : (18.0) 底径 : 器高 : [5.0]	マメツ、沈綴	マメツ	[外] にぶい黄橙 10YR7/2 [内] にぶい黄橙 10YR7/3	青 4 mm以下の石英・長 石含む	良	中期初期（講岐日 -I）	
119 SB01	弥生土器	口縁～頸部	口径 : (23.0) 底径 : 器高 : [6.2]	ナデ、ハケ	ナデ、指オサエ	[外] にぶい黄橙 10YR6/3 [内] にぶい黄 7.5YR6/4	青 3 mm以下の石英・長 石含む	良	香東川下流域土器	
120 SB01	弥生土器 甕	口縁～頸部	口径 : (16.0) 底径 : 器高 : [3.7]	ヨコナデ、タテ ハケ	ヨコナデ、タテ ハケ	[外] にぶい黄 7.5YR6/4 [内] にぶい黄 7.5YR6/4	青 2.5 mm以下の石英・ 長石・赤色粒含む	良	香東川下流域土器	
121 SB01	弥生土器 甕	口縁～頸部	口径 : (13.0) 底径 : 器高 : [4.5]	ヨコナデ、タテ ハケ	ヨコナデ、タテ ハケ (マメツ)	[外] にぶい黄 7.5YR6/4 [内] にぶい黄 7.5YR6/4	青 2 mm以下の石英・長 石・赤色粒・角閃石 含む	良	香東川下流域土器	
122 SB01	弥生土器 甕	口縁～頸部	口径 : - 底径 : 器高 : [4.0]	マメツ、ヨコナ デ、タテハケ	マメツ	[外] にぶい黄橙 10YR7/2 [内] 灰白 2.5Y8/2	青 3 mm以下の石英・長 石・赤色粒含む	良		
123 SB01	弥生土器 甕	口縁～頸部	口径 : (24.0) 底径 : 器高 : [5.2]	ナデ (マメツ)	指オサエ、ナデ (マ メツ)	[外] 浅黄橙 2.5YR8/4 [内] 浅黄橙 2.5YR8/4	青 3 mm以下の石英・長 石・赤色粒含む	良		
124 SB01	弥生土器 甕	口縁～胴部	口径 : (9.0) 底径 : 器高 : [6.7]	ハケ、波状文、 マメツ	マメツ	[外] にぶい黄橙 10YR6/3 [内] にぶい黄橙 10YR6/3	青 2 mm以下の石英・長 石・黒色粒含む	良		
125 SB01	弥生土器 長頸甕	口縁～頸部	口径 : (10.0) 底径 : 器高 : [12.4]	マメツ	指ナデ、シボリ	[外] にぶい黄 7.5YR6/4 [内] にぶい黄 7.5YR7/4	青 4 mm以下の石英・長 石・赤色粒・黒色粒・ 金雲母含む	良		
126 SB01	弥生土器 広口甕	口縁～頸部	口径 : (16.0) 底径 : 器高 : [6.5]	回転ケズリ ? ヨコ ナデ (マメツ)	回転ケズリ ? ヨコ ナデ (マメツ)	[外] 灰 7.5YR4/3 [内] 灰 7.5YR4/2	青 3 mm以下の石英・長 石・角閃石含む	良		
127 SB01	弥生土器 広口甕	口縁～頸部	口径 : (20.4) 底径 : 器高 : [7.2]	マメツ、ナデ	マメツ	[外] 灰 SYR7/6 [内] 灰 SYR7/6	青 6 mm以下の石英・長 石含む	良		

表9 遺物観察表7

番号	清廣	種類 器種	部位	法量 (cm) 〔推定値〕 〔残存量〕	調査		色調	粘土	焼成	備考
					外面	内面				
128	SR01	弥生土器 高坪	耳部	口径 : (13.0) 底径 : - 留高 : (2.9)	回転ナデ	回転ナデ、沈堀	〔外〕にぶい黄褐色 7.5W85/3 〔内〕にぶい黄褐色 7.5W85/4	青 2mm以下の石英・長 石含む	良	香東川下流域土器
129	SR01	弥生土器 高坪	耳部～頸部	口径 : (17.0) 底径 : - 留高 : (4.4)	回転ナデ、ナデ、 ヘラミガキ。マ メツ	回転ナデ、ナデ。 ヘラミガキ。マメ ツ	〔外〕にぶい黄褐色 10YR8/3 〔内〕にぶい黄褐色 10YR8/4	青 3mm以下の石英・長 石・角閃石含む	良	香東川下流域土器
130	SR01	弥生土器 高坪	耳部	口径 : (22.8) 底径 : - 留高 : (4.2)	回転ナデ、ヘラ ミガキ (マメツ)	回転ナデ。ヘラミ ガキ	〔外〕橙 7.5W86/4 〔内〕にぶい黄褐色 7.5W86/4	青 4mm以下の石英・長 石・赤色粒・金雲母・ 角閃石含む	良	香東川下流域土器
131	SR01	弥生土器 高坪	耳部～頸部	口径 : - 底径 : - 留高 : (9.0)	ケズリの板分割 ミガキ。相オ サエ。ケズリ	ケズリの板分割 ミガキ。相オサ エ。	〔外〕明黄 5YR8/6 〔内〕にぶい黄褐色 10YR8/3	青 3mm以下の石英・長 石・赤色粒・金雲母・ 角閃石含む	良	香東川下流域土器 耳部内面: 黑斑あり
132	SR01	弥生土器 高坪	脚部	口径 : - 底径 : (13.6) 留高 : (6.1)	ナデ。不明	ナデ。ハケ (マ メツ)	〔外〕浅黄 2.5Y7/4 〔内〕浅黄 2.5Y7/4	青 3mm以下の石英・長 石含む	良	香東川下流域土器 孔3箇所
133	SR01	弥生土器 跡	口縫部～体部	口径 : (12.9) 底径 : - 留高 : (6.1)	ナデ、マメツ	ナデ、マメツ	〔外〕にぶい黄褐色 7.5W86/4 〔内〕にぶい黄褐色 7.5W86/4	青 2mm以下の石英・長 石含む	良	
134	SR01	弥生土器 跡	口縫部～体部	口径 : (23.4) 底径 : - 留高 : (6.6)	ナデ、ハケ	板ナデ。相オサエ	〔外〕にぶい黄褐色 5YR8/4 〔内〕橙 5YR8/6	青 2mm以下の石英・長 石・赤色粒含む	良	
135	SR01	弥生土器 跡	口縫部～体部	口径 : (30.8) 底径 : - 留高 : [8.4]	ハケ (マメツ)、 ナデ	マメツ	〔外〕淡黄褐色 10YR8/3 〔内〕浅黄褐色 2.5YR8/3	青 5mm以下の石英・長 石・赤色粒含む	良	
136	SR01	弥生土器 製埴土器	脚部～脚部	口径 : - 底径 : 3.8 留高 : (11.2)	ナデ (マメツ)、 相オサエ。ナデ	ナデ	〔外〕にぶい黄褐色 10YR8/4 〔内〕にぶい黄褐色 10YR8/3	青 4mm以下の石英・長 石含む	良好	
137	SR01	弥生土器 ミニチュ ア土器	脚部	口径 : - 底径 : - 留高 : (5.85)	ナデ、マメツ	相オサエ、ナデ (3 コ方向)	〔外〕灰黃 5Y5/1、灰黃 2.5Y6/2	青 4mm以下の石英・長 石含む	良	内外断面: 付着物有 り (10YR8/6 黄褐色)
138	SR01	弥生土器 広口壺か 脚台	口縫部	口径 : (23.0) 底径 : - 留高 : (1.7)	回転ナデ、ナデ、 回転ナデ。脚突文 (竹管文)、 ヘラカズリ	回転ナデ。脚突文 (竹管文)、 ヘラカズリ	〔外〕褐紅 10YR4/1 〔内〕褐紅 10YR4/1	青 2mm以下の石英・長 石含む	良	
139	SR01	弥生土器 脚台	脚部	口径 : - 底径 : - 留高 : (20.3)	ナデ	ナデ。シボリ。ナ デ	〔外〕灰黃 2.5Y7/2 〔内〕灰黃褐色 10YR6/2	青 6mm以下の石英・長 石含む	良好	スカシ2箇所
140	SR01	弥生土器 脚部～脚部 器台	脚部～脚部	口径 : - 底径 : (26.6) 留高 : (9.1)	ハケ、マメツ	不明	〔外〕灰黃 2.5Y7/2 〔内〕浅黄 2.5Y7/3	青 4mm以下の石英・長 石・赤色粒含む	良	
141	SR01	土師器 甕	口縫部～脚部	口径 : (16.0) 底径 : - 留高 : (11.5)	タテハケ。ナデ、 ヨコハケ。ナデ、 マメツ	ヨコハケ。ナデ、 マメツ	〔外〕浅黄 2.5Y7/3 〔内〕浅黄 2.5Y7/3	青 4mm以下の石英・長 石・黒色粒含む	良	
142	SR01	須恵器 壺	口縫部	口径 : (11.6) 底径 : (5.0) 留高 : (3.8)	回転ケズリのち 回転ナデ。回転 ナデ	回転ケズリのち回 転ナデ	〔外〕灰白 10YR7/1 〔内〕灰白 10YR7/1	青 2mm以下の石英・長 石・黒色粒含む	良好	
143	SR01	須恵器 壺	口縫部	口径 : (11.0) 底径 : (5.0) 留高 : (3.35)	回転ナデ。回転 ナデ	回転ナデ	〔外〕灰白 N7/ 〔内〕灰白 N7/	青 1mm以下の石英・長 石・黒色粒・赤色粒 含む	良	
144	SR01	須恵器 壺	口縫部	口径 : (10.2) 底径 : - 留高 : (3.1)	回転ナデ。ヘラ ミガキ	回転ナデ	〔外〕灰白 N7/ 〔内〕灰白 N8/	青 1mm以下の石英・長 石含む	良	
145	SR01	須恵器 壺	口縫部	口径 : (13.4) 底径 : - 留高 : (4.3)	回転ナデ。回転 ナデ。ヘラカズリ。回 転ナデ	回転ナデ。相オ サエ	〔外〕灰白 N7/ 〔内〕灰白 N6/	青 2mm以下の石英・長 石含む	良	
146	SR01	須恵器 壺	脚部	口径 : (12.2) 底径 : - 留高 : 4.2	回転ナデ。ヘラ ミガキ	回転ナデ	〔外〕灰白 N7/ 〔内〕灰白 N7/	青 3mm以下の石英・長 石・黒色粒含む	良	内面: 付着物あり
147	SR01	須恵器 壺	脚部	口径 : - 底径 : 9.4 留高 : (4.1)	回転ナデ。回転 ナデ。ヘラカズリ。相 オサエ	回転ナデ	〔外〕灰黃 2.5Y6/2 〔内〕灰黃 2.5Y7/2	青 2mm以下の石英・長 石・黒色粒含む	良	赤みあり
148	SR01	須恵器 短颈壺	脚部	口径 : - 底径 : - 留高 : (13.1)	回転ナデ。回転 ナデ。ヘラカズリ。相 オサエ	回転ナデ	〔外〕灰 N6/1、灰白 N7/ 〔内〕灰 N6/	青 2mm以下の石英・長 石含む	良	内面: 付着物あり
149	SR01	須恵器 平瓶	脚部～底部	口径 : - 底径 : (4.7) 留高 : (10.8)	ナデ。ヨコハケ。 回転ケズリ。相 オサエ	回転ナデ	〔外〕灰 N6/1 〔内〕灰 N6/	青 3mm以下の石英・長 石・黒色粒含む	良好	
150	SR01	須恵器 大型壺	脚部	口径 : - 底径 : - 留高 : (12.2)	ナデ。ハケ	ナデ。タキ	〔外〕灰 7.5Y5/1 〔内〕灰 N6/	青 1mm以下の石英・長 石・黒色粒含む	良	内外面: 自然釉

表 10 遺物観察表 8

番号	遺構	種類	部位	法量 (cm) 〔推定値〕 〔現存量〕	調整		色調	土	飛 灰	備考
					外面	内面				
151	SB01	須恵器 甕	胴部～底部	口径 : - 底径 : - 高さ : [22.0]	タタキ	青海波	「外」灰 N4/ 「内」灰白 N7/	青 3 mm 以下 の 石英・長 石・黒色粒含む	良好	底部外面：別個体付 着痕 2箇所
152	SB01	木製品 盤所		現存長 : 14.0 現存幅 : 4.3 現存厚 : 4.1	面取り、固定痕					
153	SB01	木製品 木鍤		現存長 : 7.3 現存幅 : 5.6 現存厚 : 4.3						
154	SB01	木製品 木鍤		現存長 : 6.9 現存幅 : 5.0 現存厚 : 3.7						
155	SB01	木製品 板材		現存長 : 13.2 現存幅 : 11.9 現存厚 : 4.9						
156	SB01	石器 石匙	石匙	現存長 : 4.3 現存幅 : 6.2 現存厚 : 0.7						重量: 14.8g 石材: サスカイト
157	SB01	石器 石核		現存長 : 4.8 現存幅 : 6.2 現存厚 : 1.8						重量: 36.5g 石材: サスカイト



1 SD01 北半



2 SD02 南半

図版 2



3 SD01 北壁断面



4 SD01 南壁断面



5 SD02 北壁断面



6 SK01 半裁状況



7 SR01 南壁断面



8 SE01 檢出狀況

図版 4



9 弥生土器（甕）



10 弥生土器（壺）



11 弥生土器（高坏）



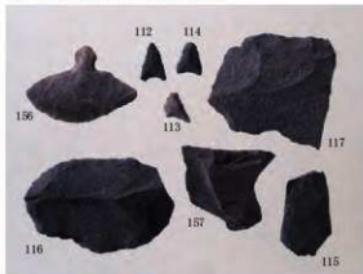
12 弥生土器（鉢）



13 弥生土器（その他の器種）



14 SR01 出土木器・種子



15 石器・石核

図版 6



16 SR01 出土土器

報 告 書 抄 錄

高松市埋蔵文化財調査報告第229集
都市計画道路木太鬼無線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
第5冊

木太小原遺跡

発行 高松市番町一丁目8番15号
高松市教育委員会

印刷 有限会社中央ファイリング
